Japan Auto Parts Industries Association

JAPIA NEWS

2015
7・8
隔 月 刊
（通巻708号）

一般社団法人 日本自動車部品工業会

特 集

部工会 通常総会開催

平成27年度 事業計画承認

特 集

INTERMOLD 2015でアピール

会員企業の最新技術を紹介

平成27年度中小企業会員各社 優良従業員表彰

DBJ 経済ワンポイント解説 Vol.4

世界経済の成長鈍化とインフラ投資への期待

会 員 企 業 紹 介

内山工業株式会社

http://www.japia.or.jp

akebono

BRAKE EXPERTS

www.**akebono-brake**.com

安全を光に託して

人とクルマの安全は、わたし達の願いです。
小糸製作所は自動車照明分野のリーディング・カンパニーとして
これからも人と環境にやさしい製品を提供してまいります。

株式会社小糸製作所
〒108-8711　東京都港区高輪四丁目8番3号
TEL: 03-3443-7111（代表）　http://www.koito.co.jp

インドへの進出、調達のお手伝いをします。

「V SOLUTION GLOBAL」は米国部品メーカーから派生したコンサルタント企業です。独自のインド進出で蓄積した経験とノウハウを、これからインドへの進出や調達を検討される日本のサプライヤーへサポートの提供を行い、お役に立ちたいと思います。

ご提供できるお手伝いとは…

①工場進出と販路拡大のお手伝い
- ＊用地選定、地域政府との交渉、人材採用
- ＊ジョイントベンチャーのパートナー選定と交渉代行
- ＊当該部品の市場調査および販路開拓
- ＊材料サプライヤーに関する調査および情報提供

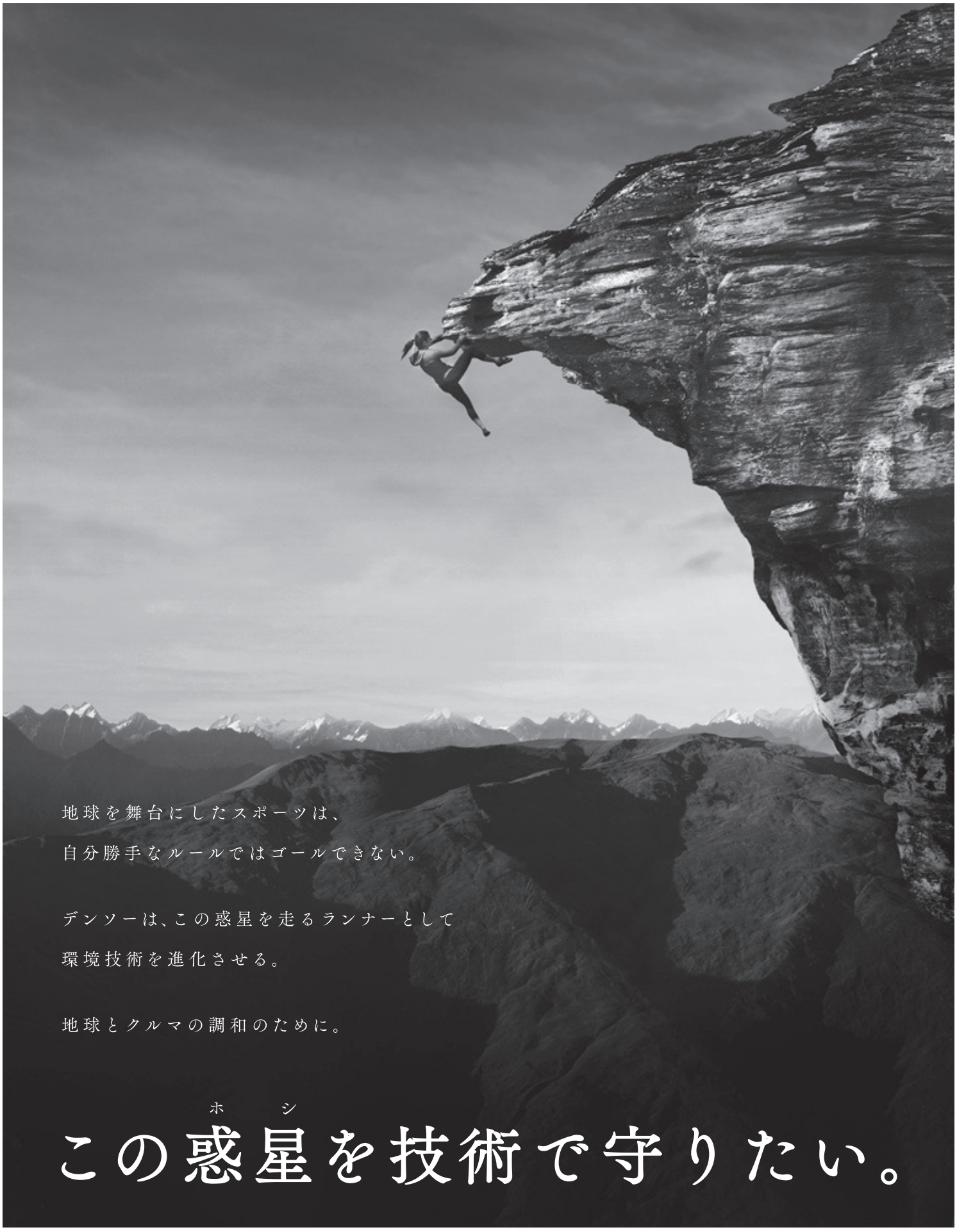
②部品調達に関するお手伝い
- ＊適合する現地サプライヤー紹介
- ＊コスト調査見積りと技術力評価
- ＊輸送手段選定とコスト調査

③技術提供と品質保証に関するお手伝い
- ＊カーメーカーの要求するスペック適合のための現地サプライヤーへの技術指導と評価
- ＊CAD設計、電子部品設計、FEA、公差解析
- ＊製品の現地適合化のための設計提案

これらのお手伝いは弊社東京事務所を窓口に、インド事務所との連携で進めさせていただきます。

V- Solutions Globalの世界拠点：
弊社は米国本社の他、下記の拠点をアジア地区にを持ち、それぞれが下記の活動を行っています。
- ＊米国本社：ミシガン州グランドヘーブン市（デトロイト市の西方４００Km）：アジア進出を目論む北米サプライヤーの開拓。
- ＊インド：デリー市及びハイドラバッド市：インド進出を意図するサプライヤーへの各種援助、各種部品調達援助およびそれらに伴う技術援助。
- ＊中国：上海市：エレクトロニクス製品調達を含む各種自動車部品調達。
- ＊韓国：ソウル市：金型調達、エレクトロニクス製品調達。
- ＊日本：東京：インド進出を目論むサプライヤーへの援助、各種部品調達援助。

お問合せは…
V SOLUTIONS GLOBAL 東京事務所　〒107-0052 東京都港区赤坂9-1-7 719号室
TEL.03-6434-9346　FAX.03-6434-9347　e-mail：ralphy@vsolutionsglobal.com　WEB：www.vsolutions.com


地球を舞台にしたスポーツは、
自分勝手なルールではゴールできない。
デンソーは、この惑星を走るランナーとして
環境技術を進化させる。
地球とクルマの調和のために。
この惑星（ホシ）を技術で守りたい。

DENSO

おかげさまで、70周年。

事業内容

▼自動車部品事業

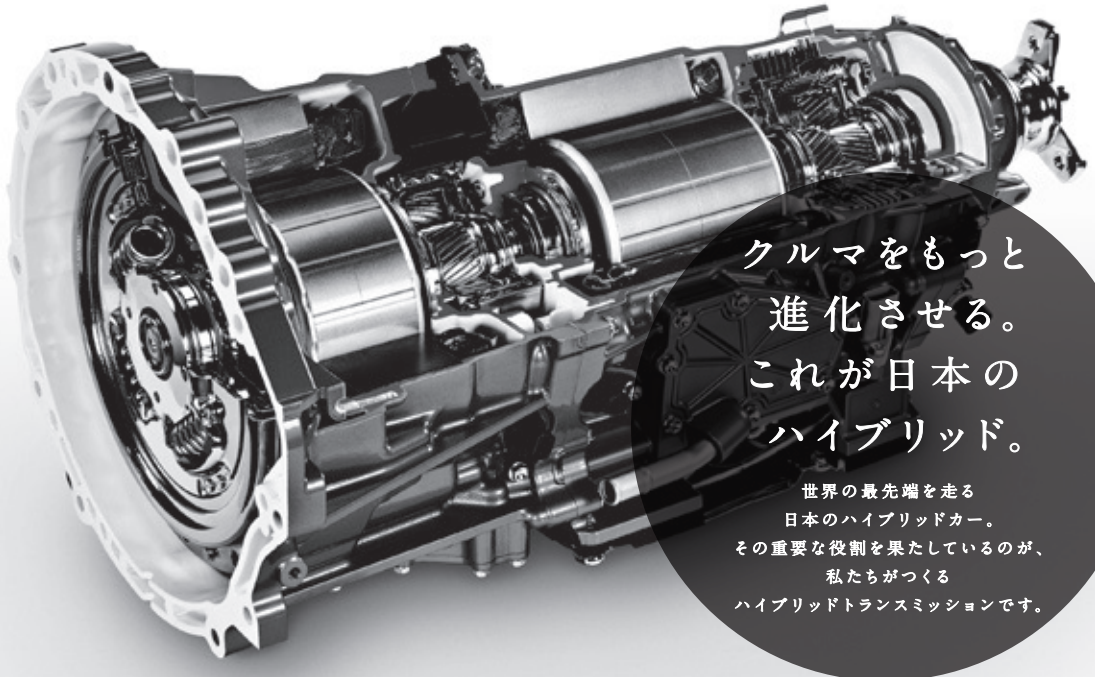
排気系部品、ボデー骨格部品、
内外装機能部品、足回り部品、
燃料系部品

▼情報環境機器事業

▼外販設備、金型事業

70
FUTABA
70th Anniversary
since1945

フタバ産業株式会社　岡崎市橋目町字御茶屋1番地



クルマをもっと
進化させる。
これが日本の
ハイブリッド。

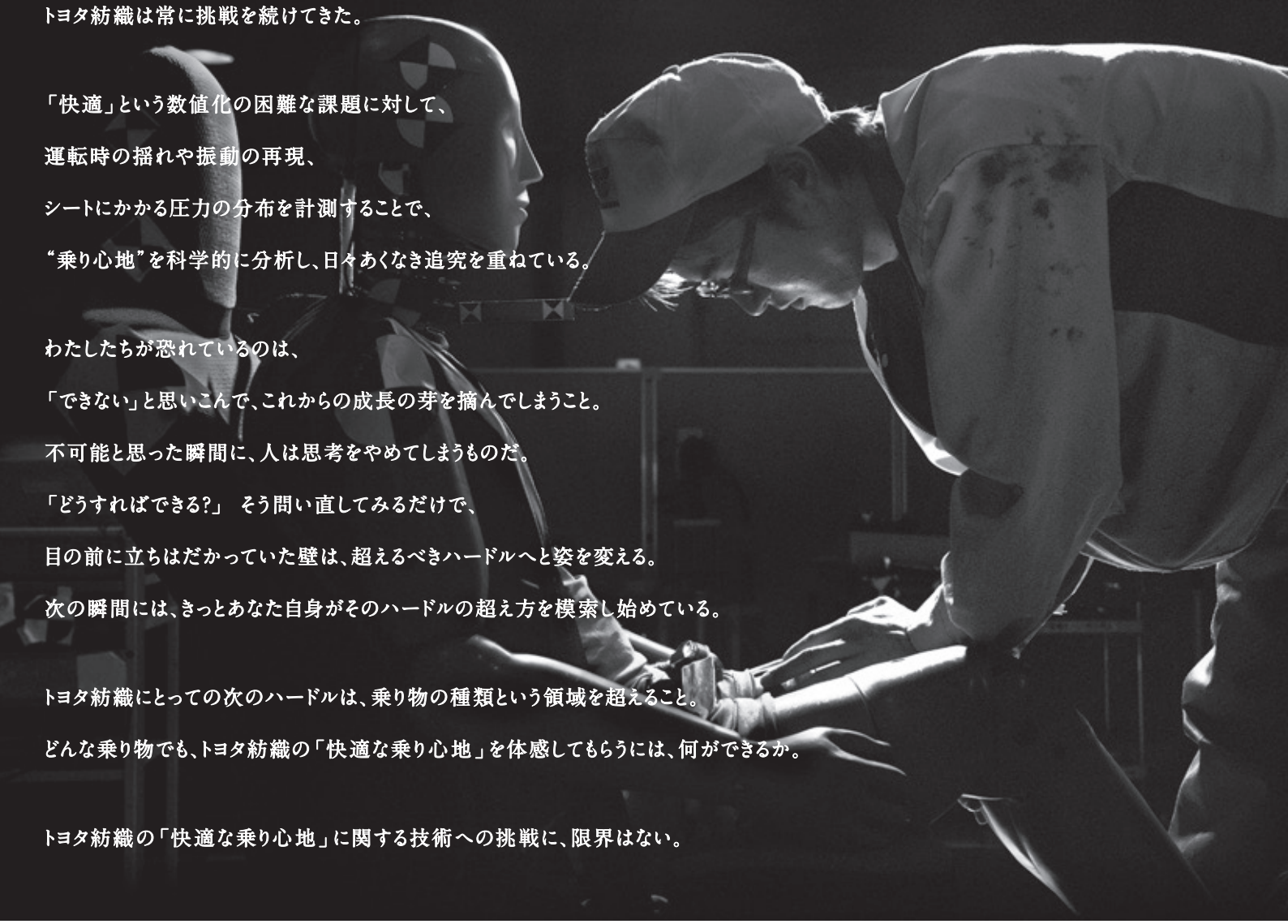
世界の最先端を走る
日本のハイブリッドカー。
その重要な役割を果たしているのが、
私たちがつくる
ハイブリッドトランスミッションです。

FR ハイブリッド
トランスミッション
AWRHT25

FF ハイブリッド
トランスミッション
AWFHT15

アイシン・エィ・ダブリュ
オートマチックトランスミッション世界シェアNo.1 ※当社調べ

自分の限界を
自分で決めるな。



トヨタ紡織は常に挑戦を続けてきた。

「快適」という数値化の困難な課題に対して、
運転時の揺れや振動の再現、
シートにかかる圧力の分布を計測することで、
“乗り心地”を科学的に分析し、日々あくなき追究を重ねている。

わたしたちが恐れているのは、
「できない」と思いこんで、これからの成長の芽を摘んでしまうこと。
不可能と思った瞬間に、人は思考をやめてしまうものだ。
「どうすればできる?」 そう問い直してみるだけで、
目の前に立ちはだかっていた壁は、超えるべきハードルへと姿を変える。
次の瞬間には、きっとあなた自身がそのハードルの超え方を模索し始めている。

トヨタ紡織にとっての次のハードルは、乗り物の種類という領域を超えること。
どんな乗り物でも、トヨタ紡織の「快適な乗り心地」を体感してもらうには、何ができるか。

トヨタ紡織の「快適な乗り心地」に関する技術への挑戦に、限界はない。

トヨタ紡織が生み出す製品は、様々な領域に広がっています。

シート

ドアトリム

エアクリーナー

ハイブリッドシステム用
モーターコア構成部品

北陸新幹線グランクラス搭載シート

航空機シート

トヨタ紡織

NGK スパークプラグ | NTK ニューセラミック 日本特殊陶業

http://www.ngkntk.co.jp/

巻頭言

Introduction

一般社団法人日本自動車部品工業会
副会長・判治　誠吾

［大同メタル工業株式会社
代表取締役会長兼最高経営責任者］

本当に月日の経つのは早いもので、皆様がこの「JAPIA NEWS」を読まれる頃は今年も6ヶ月を過ぎてしまっている筈です。「ジャネーの法則」にあるように、人間は今まで経過してきた時間が長いほど年月の長さを短く感じる。

例えば同じ1年でも、5歳の人間にとっては5分の1、50歳の人間にとっては50分の1と評価されるので、年を取ると1年が…1ヶ月が…どんどん短く感じるのです。

そんな訳で、6ヶ月も前の年初の話を持ち出すのは大変申し訳ございませんが、今年の社内での年頭挨拶について記します。

この年頭挨拶でよく干支（えと）の話をされる方がおられますが、従来私はあまり干支の話を出しませんでした。

ところが、今年は後に述べますような理由により、干支の話から始めました。

今年は、乙（きのと）の未（ひつじ）年。

乙は字のごとく真っ直ぐ、直線的、一本

調子には伸びないことを表し、
未の木という字の上にある一は枝葉、果実を意味する。

従って今年は、一本調子ではなく、紆余曲折を経て、最後（年末）には
何とか良くなるという年。

そして、この事を述べた理由は世界情勢が…

1）欧州がデフレの入口に立っているように思われる
2）中国の景気減速が鮮明
3）米国が国内を中心に考え、世界における地位が低下してきた
4）過激派組織ISなど中東リスク等々、正に不透明感が漂っている

その意味から今年の干支が象徴しているように考えられたからです。

しからば、日本経済はどうでしょうか？

私の考えるところ、やはり金融政策、円安、株高、原油安等に支えられた表層的なもののように思われ、まだまだ実体経済の回復には至っていません。

日本の未来を切り拓くキーワードは「イノベーション」と「グロバリゼーション」であると、経団連の「『豊かで活力ある日本』の再生」で榊原会長が述べられています。私も同感であります。

そして、「イノベーション」とは技術革新のみならず、旧来の常識にとらわれずに新しい変革を起こしていくことが必要。

「グローバリゼーション」とはグローバル経済の中で成長を勝取っていくことが必要と語られていますが、正に正論であり、無論「言うは易し…」ですが、やはりこれしかないように思います。

手間も時間もかかり、多大なエネルギーと知恵が必要でありますが、他に道がないのですから、根気よく、粘り強く、皆で力を合わせて取り組んでいきましょう。

特集

部工会 通常総会開催

平成27年度 事業計画承認

日本自動車部品工業会は、5月28日（木）、東京都内のホテルにおいて平成27年度通常総会を開催した。当日は、平成26年度事業報告・決算および平成27年度事業計画・予算について審議し、いずれも原案どおり承認された。

今年度の事業計画では、自動車産業取引適正化ガイドラインの周知を図り、更なる取引適正化を支援するほか、自然災害時の対応としてリスクマネジメントに対する支援を実施する。中小会員企業への支援として技術展示商談会開催のほか、東京モーターショーへの共同出展を行う。海外事業展開への支援として、輸出入のインフラや法規制を含めた各国の国際物流に関する課題の整理に取組む。知的財産権保護活動では、中国以外の地域での模倣品対策としてUAEでの活動を展開する。環境問題への対応では、経団連から2030年の温暖化削減目標を求められているため、その対応を検討する。その他、電子情報化活動や基準認証制度への対応等、10項目（事業計画参照）の重点事業を中心に活動を強化していく方針である。

この他、一部理事の辞任に伴う補充選任と定款の一部変更が承認された。

総会で挨拶をする玉村会長

総会会場

平成27年度 事業計画

1. 自動車産業における取引環境の整備・改善

昨年度改訂が行われた「自動車産業取引適正ガイドライン」については、関係省庁・団体とも連携しながら、会員企業等への周知等を継続するとともに、問題視されている取引上の行為（例えば、旧型補給部品問題）については、関係団体等と協議を行い、自動車産業における取引の更なる適正化を支援する。また、品質不具合が発生した場合、車台や部品の共通化、使用環境の多様化等によって、企業経営への影響の拡大が懸念される中で、企業としての対応等について研究を行なう。

2. 中小企業への支援

中小企業のビジネス機会の創出を図る目的で自動車メーカーを対象とした技術展示商談会を開催するとともに、WEBを活用した仮想展示について検討を行なう。更に、本年秋に開催される第44回東京モーターショーへの共同出展を行なう。また、自動車部品産業の認知向上のために、主に学生、教員を対象とした広報活動を継続するとともに、欧米関係団体との協力を模索する。

3. CSRの推進

(1) リスクマネジメントに対する支援

①自然災害等の非常事態発生時への対応として、リスク対応支援を継続する。会員企業で取組んでいるBCPの実効性をあげるため、自然災害（例えば地震）を想定した模擬演習等を今年度も引き続き実施する。

②紛争鉱物規制問題については、会員企業の調査負荷低減のため、調査方法（記入要領等）の見直しを関係団体と連携しながら実施するとともに、欧州においても同様の規制が検討されていることから、その動向を注視する。また、海外進出会員企業の安全対策等事業環境整備の支援として、海外での「海外安全・健康管理サービス」の内容充実、活用拡大や労務・税制問題等に関する講演会を実施する。

③不安定な電力需給や電力価格の問題が懸念される中で、政府等の電力需給の見通し等適宜情報を提供するとともに可能な限り他業界を含めた省エネ・省電力の情報提供・情報共有を行う。

(2) コンプライアンスの強化

企業の法令順守が求められる中で、国内外の関連法規の情報提供・共有を行う。

4. 海外事業の展開・安定化への支援

(1) 会員企業の海外事業展開が引き続き拡大していることから、事業体質強化への支援策として、輸出入のインフラや法規制等を含めた各国の国際物流に関する課題へ対応する。また、税制や労務管理など現地企業のマネジメントを支援する情報提供を行う。

(2) 日本が絡むFTA／EPAだけでなく、製品・部品の物流の多様化に対応した第三国間のFTA／EPAの利用促進のため、各国のFTA／EPAがどうなっているのか、マトリックスでわかりやすく検索し比較分析や事業性試算に活用できる資料の作成を検討する。

(3) 海外に事業展開していない企業への支援も念頭に置き、経済産業省、財務省などのご指導を仰ぎながら、関税分類番号に関する部品業界の問題意識の説明やWTOでの関税引き下げの働きかけを行う。

5. 知的財産権保護活動

(1) 中国国内での模倣品対策としては、中国当局への取締りのための情報提供、欧米系の反模倣品団体との連携強化による模倣品対策活動を強化する。また中国以外での模倣品被害拡大に対応して、中国以外での模倣品対策活動に本格的に取り組む。まず手始めとして模倣品流通の中継地であるUAEで取り締まり当局への活動強化の要請や協力依頼を行う。

(2) 海外事業拡大に伴う知的財産権分野でのリスクに関する注意喚起のため、具体的なテーマを設定して情報共有や個別相談の機会を提供する。

6. 国際交流の推進

平成27年度は、東京モーターショーに時期を合わせ、日米欧三極自動車部品会議、日韓自動車部品工業協議会を実施する。

7. 環境問題への対応

(1) 2013年度以降、「2020年までの温暖化削減目標」として立案した第7次環境自主行動計画（CO_2原単位　年平均1％低減）を展開しているが、経団連より2030年目標の設定を求められているため、対応を検討するとともに、各会員企業は継続的な削減活動が要求されるため、サポートの継続・強化に努める。また、すでに会員にリリースした「JAPIA LCA計算ツール」の普及を図り、CO_2削減活動の強化につなげる。

(2) 製品含有化学物質管理を効率的に実施するため、規制動向の把握、自動車工業会との意見調整等を実施し、会員およびサプライチェーンのさらなる作業負荷低減に努める。また、IMDSの長期構想（IMDS2020）において、その改訂等による影響を最小化するため、IMDSステアリングコミッティに対し、一定の発言力を確保するべく引き続き渉外活動に注力する。

(3) 中国においてELV規則の施行が見込まれるため、会員への的確な情報提供と中国の製品含有化学物質に関する情報提供システム（CAMDS）のヘルプデスク設置によるサポートを行っていく。また、車室内VOC規制等自動車に関する環境政策が大きく変化する中国において、会員への適正な情報提供、活動しやすい環境づくりのため、中国自動車技術研究センター（CATARC）とは定期的な情報交換の場を拡大していく。

(4) 今後市場が拡大していく東南アジア等での環境規制動向を把握し会員へ展開できる仕

組みを構想していく。

8. 電子情報化活動

JNXの利用拡大の支援を行う。デジタルエンジニアリングにおいては3Dデータのセキュリティ強化等、基礎的かつ会員共通領域の課題検討を行い、紹介に努める。また、自動車部品メーカー間のEDI利用拡大については、JNX回線を活用した手法の紹介に努める。

9. 基準・認証制度への対応

相互認証が基本である58協定に関わらず、アジア、南米等の各国は、独自認証制度を設けている。これを受けて、これまでと同様、基準認証部会が中心となり、各地域に対するWGを充実させ、他団体（JAMA、JASIC、CLEPA等）と協業、各国当局＆業界のパイプを通して具体的な展開（早期情報入手、改善折衝等）を図っていく。そしてこれらの情報はJAPIA　HPを通じて広く会員会社へ展開していく。また、従来通り、下記活動を継続的に進めていくこととする。

(1) 基準の国際調和活動については、引き続き欧州部工会（CLEPA）、米国部工会（MEMA）と連携して国連のECE/WP29（車両構造部会）へ参加し、ECE規則への対応に重点的に取組む。また新たな欧州での関連法規については、CLEPAと連携して情報収集に努め、国内部品メーカーへの展開を図る。

(2) 韓国、中国、インドやブラジル等の部品認証制度に関しては、継続的に情報収集を実践する。特にASEANの部品認証制度に関しては2015年開始が予定されているが、各国の事情が複雑に絡み、しっかりした情報収集が重要となっている。アジア官民会議への参画をはじめ、日系部品メーカーの円滑な認証取得を支援すべく活動を継続する。また、中国強制認証制度（CCC認証）についても、規則の改定等変更が多発傾向にあるため、関係当局への聞き込みなどの働き掛けを行い、認証取得関連業務の負担軽減に努める。

10. 支部事業要望

(1) 関東支部

工業会事業計画に定められた方針に沿って本部活動との連携を図り、関東支部会員企業の相互交流と情報交換の機会を提供するために懇談会・懇親会、工場・施設見学会、講演会等を開催する。具体的には、企画部会が中心となって検討し、会員企業の事業活動に資する活動を積極的に展開する。

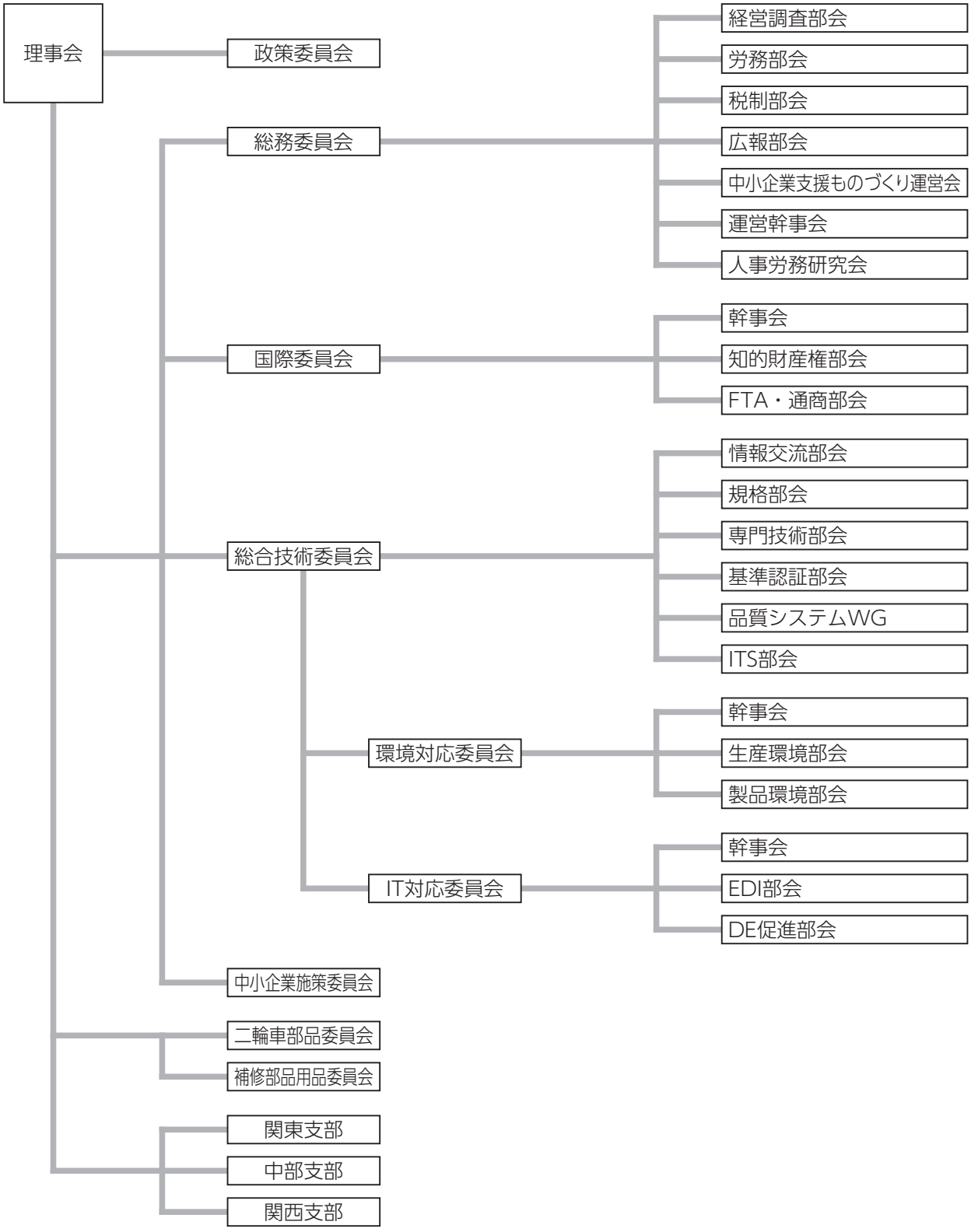
(2) 中部支部

今年度も会員企業のニーズにタイムリーに応える事業活動の展開を図り、中小企業会員を中心に次世代自動車へのビジネス拡大やものづくり力向上のための支援を継続して推進し、また地球温暖化対策のために、幅広い環境保全活動への積極的な支援事業を進めて行く。

(3) 関西支部

平成27年度の活動基調テーマとして、「全世界の得意先を視野に入れ、為替変動に左右されない経営体制作に取り組もう」を掲げ、諸活動を推し進めて行く。

■日本自動車部品工業会の委員会組織



特集

INTERMOLD 2015でアピール

レポート　広報部会　**斉藤浩明**（ニッパツ）

4月15日から18日の4日間、東京ビッグサイトで「INTERMOLD2015／金型展2015／金属プレス加工技術展2015」が開催され、当工業会（以下JAPIA）は協賛団体として、会員企業の最新技術紹介など様々なアピールを行うことができました。現地からレポートです。

玉村会長が基調講演

JAPIAの玉村和己会長（ニッパツ社長）が、15日、11時からレセプション会場で基調講演を行いました。玉村会長は「『自動車産業を支える日本自動車部品工業会（JAPIA）』の取り組み」のテーマで、80分にわたり、自動車部品業界を取り巻く状況や、JAPIAの取り組みなどについてわかりやすく講演しました。約300人あまりの聴講者は、メモを取るなど熱心に聴き入っていました。

講演する玉村会長

様々な業界から多くの方々が聴講

開会式でテープカット

15日、9時30分から行われた開会式で、玉村会長が来賓として紹介され、テープカットを行いました。

玉村会長が来賓として出席した開会式

開会を祝してのテープカット（右から2人目が玉村会長）

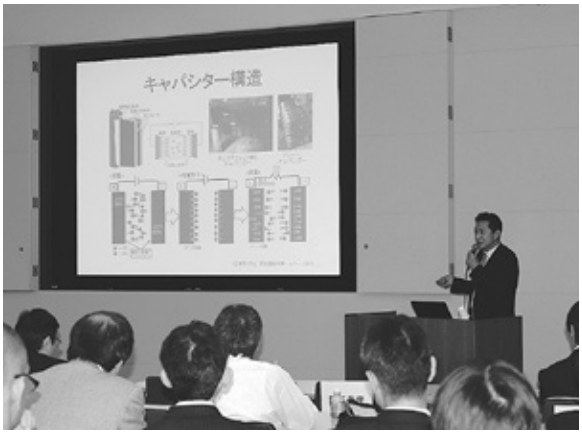
髙橋専務理事がレセプションパーティーで鏡開き

15日、17時30分から開催されたレセプションパーティーで、JAPIAの髙橋武秀副会長・専務理事が鏡開きを行いました。協賛団体を代表して登壇し、威勢よく鏡を開きました。

鏡を開く髙橋副会長・専務理事（右から3人目）

松島顧問が特別講演

17日、10時から会議室で、JAPIAの松島正秀技術担当顧問が、「自動車の技術動向～環境や自動運転と部品技術の取り組み」のテーマで特別講演を行いました。約250人が聴講し、様々な視点での自動車の技術動向を熱心に聴いていました。



最新の技術動向を講演する松島顧問

JAPIAブース大盛況

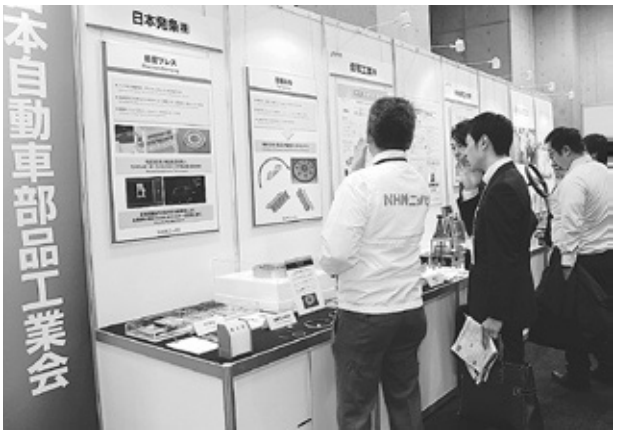
JAPIAは展示ブースを設け、9社が出展しました。出展社は次の通り（五十音順）。

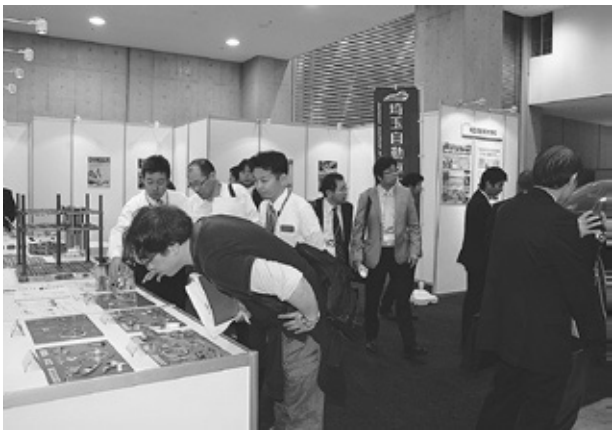
・協和工業（愛知）
・神戸製作所（茨城）
・三和ニードルベアリング（茨城）
・中庸スプリング（愛知）
・日光金属（栃木）
・ニッパツ［日本発条］（神奈川）
・ファインツールジャパン（神奈川）
・矢島工業（群馬）
・ワイピーシステム（埼玉）

各社とも自社の製品や技術の優位性を訴求しました。具体的な商談につながるところもあり、自動車部品産業の幅広さとレベルの高さを感じさせる展示内容でした（各社の展示概要17、18ページ参照）。

また、埼玉自動車大学校が実車のカットモデル2台を展示し、エンジンなどの主要部分が作動することから、注目を集めていました。

注目を集めた埼玉自動車大学校の「動く」カットモデル





盛況だった当工業会のブース。熱心に説明を受ける来場者も目立った

JAPIA主催の懇親会を開催

17日、16時から、JAPIAブース内およびセミナー会場で、JAPIAが主催する懇親会を行いました。出展社のほか、機械メーカーや金型メーカー、関連団体の方々など約80人が参加しました。JAPIAからは加藤常務理事のほか、松島技術担当顧問、今井技術担当顧問が参加しました。参加者は、

JAPIAブースの各社の出展紹介

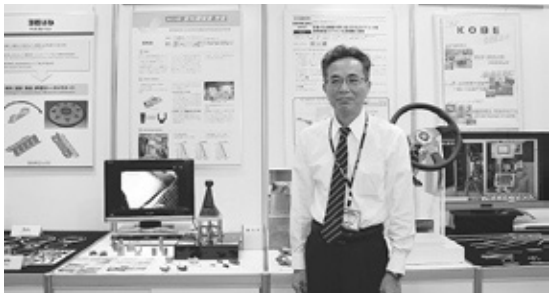
●三和ニードルベアリング

切削・熱処理・研削を社内一貫生産で安定した品質を誇る、サブミクロン精度の超精密研削によるマイクロシャフトを多彩に展示。

福田浩成　営業部営業1課長

●協和工業

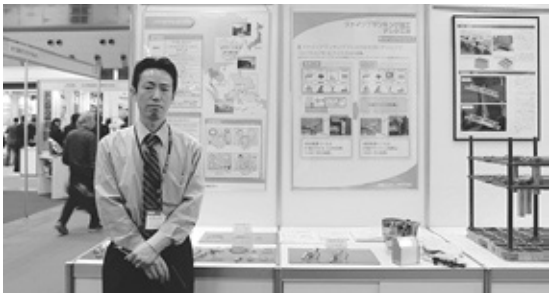
畳1枚分の小スペースで設置できる冷間成形前に施す潤滑剤の塗布装置および次世代自動車用のフリースライドシャフトを出展。



久野高嗣　顧問

●中庸スプリング

プレスダレが常識とされるファインブランキング加工品のダレ少工法を中心に、一般プレス、熱処理、皿ばねCAE解析の各製品を展示。



吉見幸二　業務部営業課長

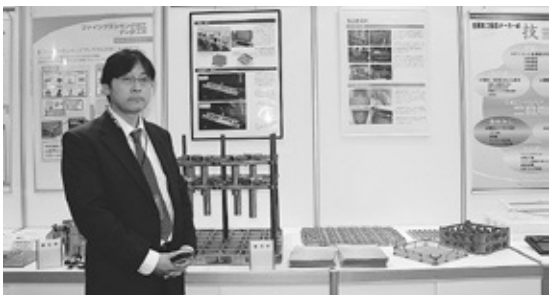
●神戸製作所

自動車をはじめ、医療、油空圧機器、玩具など幅広い分野に向け、NC自動旋盤を使った切削加工の小型量産部品を数多く展示。

古田優二　営業部主任

●日光金属

鋳造シミュレーションにより、問題点を事前に把握して、お客様のニーズに合わせた設計提案を紹介。その具体例として治具を展示。



五月女豊　総代理店サンコーマテリアル栃木営業所主任

お互いの技術に関する情報交換など有意義な時間を過ごすことができました。

来年は大阪で開催

今回の第26回展示会は4万7千人を超える来場者を集め、盛況のうちに4日間の会期を終了しました。JAPIAブースは常に盛況で、各社の説明員は対応に追われていました。

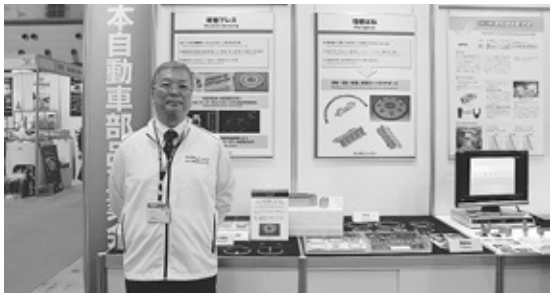
次回は来年4月20日から23日まで、インテックス大阪で開催されます。JAPIAは継続して協賛していく予定ですので、会員各社のアピールの場として、ぜひ積極的に出展をご検討ください。

懇親会の冒頭、挨拶するJAPIAの加藤常務理事

会場内のあちこちで懇親を深める光景が見られた

●ニッパツ［日本発条］

EV/HEV向けのモーターコアをメインに、HDD用の各種部品を含めた様々な精密プレス品および薄板ばね、皿ばねを展示。



今泉浩夫　精密ばね生産本部厚木工場技術課主査

●ファインツール・ジャパン

自動車用シート機構のほか、トランスミッション、エンジンなど、後工程が不要なファインブランキング加工の部品を幅広く展示。

松浦和信　システムパーツ・ジャパン営業二課長

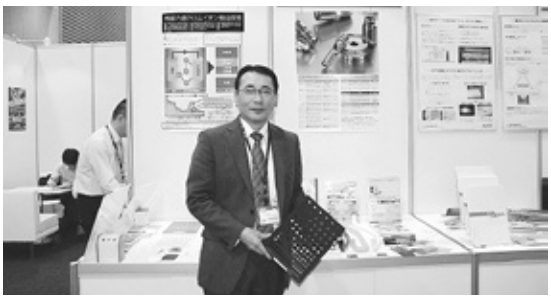
●矢島工業

軽量化のために使用されるCFRP、マグネシウムのプレス加工品およびハイブリッドカー向けの金属製の構造骨格部品を出展。

馬場泰一　取締役技術部長

●ワイピーシステム

めっきと塗装の長所を融合させ、折り曲げても割れない、剥がれないといった特長を持つ高機能材料「カラーCBC」を中心に展示。



吉田英夫　代表取締役

平成27年度中小企業会員会社優良従業員表彰

昭和57年度より毎年、工業会の中小企業会員の優良従業員に対する表彰が行われています。平成27年度の表彰者が次の各氏に決定し、各支部それぞれの支部年次会において表彰されました。

表彰受賞者の皆さんに対し、心からお祝い申し上げますとともに、今後とも引き続きご活躍されますように期待致しております。

表彰受賞者は全員勤続15年以上、年令は35歳以上の方々です。

なお、掲載内容（情報公開）につきましては、ご了解をいただいております。

平成27年度優良従業員表彰者

（関　東）

田内　昭光（たうち　あきみつ）

石川ガスケット株式会社
購買部　主査

・推せん理由

永年にわたり生産計画の業務として客先納期から着工計画の立案等、平準化生産を実行した。また、生産部門へ供給する材料の発注数の小ロット化と電算処理の合理化に貢献した。

木場　慎吾（こば　しんご）

江崎工業株式会社
栃木工場　製造部
製造二課　課長

・推せん理由

ろう付け技能習得・向上を起点に生産ラインの監督業務に従事した後、タイに赴任。初の海外工場の立上げ、安定化に成功する。帰国後は担当部署の組織運営に留まらず、工場環境改善、技能指導に尽力する一方、廃材利用のオブジェ製作・提供による企業PRへの貢献等、幅広く活躍中である。

斎藤　節子
さい とう　　せつ こ

エス・オー・シー株式会社
栃木工場　製造部門

・推せん理由

入社以来、すべての製造工程をマスターし、現在自動車関連製品の工程リーダーとして、自ら率先して社内提案を行い工程改善を進める一方、関連部署と連携を強化し、全社従業員の範として、お客様に信頼される製品作りと生産性向上に邁進している。

新井　孝
あら い　　たかし

三和ニードルベアリング
株式会社
技術部　技術1課　課長

・推せん理由

勤続21年、加工技術開発に携わり、特にパワトレ関連部品において、従来を超えた高精度、高能率加工を確立し、新規量産品を多く立ち上げた。現在は技術1課課長として、新たな加工技術開発とともに、人材育成にも積極的に取組んでいる。

小谷野　ミユキ
こ や の　　み ゆ き

埼玉機器株式会社
品質保証部　課長

・推せん理由

昭和60年に入社し、生産技術部、資材部、品質保証部と多種にわたる業務を経験し、女性初の管理職として企業の発展に寄与している。

熊野　静雄
くま の　　しず お

株式会社　松井製作所
茨城製造部　技術課
試作・集研係長

・推せん理由

入社以来39年を経過、主に切削工具の集中管理と、試作品の加工工程の設定と管理を行っている。工具の寿命の延長と加工工程の工順検討と決定・実行を通して、工場全体の工数低減、品質の安定向上に大いに寄与している。

高橋　重之
たか はし　　しげ ゆき

三輪精機株式会社
ニシウミ技術研究所　主査

・推せん理由

入社以来研究開発部門に所属、当社の主力製品で自動車に使用されている重要保安部品でもあるエアコンプレッサとバキュームポンプの製品開発に従事し、長年にわたる経験と豊富な知識により製品の量産立ち上げに貢献したことは特筆すべきものがある。

小川　肇
お がわ　　はじめ

宮本警報器株式会社
十日町工場
技術グループ　工長

・推せん理由

入社後、技術グループ・工機担当に所属し、生産設備の作成、修理に従事している。持前の向上心と自己研鑽とにより卓越した技能者に成長した。現在、工長として生産設備の作成、修理のみならず、技能者育成面でも活躍を続けている。

渋谷　敏憲
しぶ　や　　とし のり

山口電機工業株式会社
品質保証部　中国工場出向

・推せん理由

当該者は弊社に入社以来、秋田工場品質保証部にて品質管理および市場クレーム対応業務に従事していました。2013年9月より品質保証部付けで弊社中国工場に出向となり、新製品立ち上げ時の品質管理および中国工場生産品の品質向上、不良率の低減に多大な貢献をしています。これらの業績から優良従業員として推薦いたします。

（中　部）

樋口　和彦
ひ　ぐち　　かず ひこ

大橋鉄工株式会社
技術部　工機グループ
主担当員

・推せん理由

入社以来、大橋技術部に長年在籍し、型、設備づくり、工程整備計画業務に携わり、大橋のものづくりを支えてきたことは評価に値します。現在は、培ってきたスキルを若手技術者に伝承することを常に心がけ、日本のものづくり文化の継承にも大きく貢献しています。

石川　二朗
いし かわ　　じ ろう

シミズ工業株式会社
生産管理部　物流管理室
物流管理2課

・推せん理由

入社以来、生産管理一筋で生産計画と製品出荷と多岐に渡り業務を遂行。その間の勤務態度等は非常に勤勉で責任感も強く、細部での異常も見逃さず、会社としての最後の部署として不良の流出防止、生産課が円滑に生産出来る様な生産順序等の改善を行う姿は後輩の模範となっています。

森田　克彦
もり　た　　かつ ひこ

シミズ工業株式会社
技術部　試作課　主務

・推せん理由

長きに渡り技術部に所属し、その中でも自動車部品の開発に寄与する試作製品の製作業務全般に従事されてきました。長年の経験から発せられる“作り方改善”や“アイデアの具現化”は当社試作事業ばかりでなく顧客の製品開発にも大きく貢献しています。また、顧客・当社間の橋渡し役として円滑で迅速な対応は社内外からの信望も厚くとても信頼できる人物です。近年では自分の培ったものをOJTするなど若手育成にも尽力しており、その姿勢は社員の模範となるところです。

清水　孝
し　みず　　たかし

株式会社
タイガーサッシュ製作所
東栄工場　技術課

・推せん理由

入社以来、東栄工場技術課に所属し、新製品立上げの生産準備と、機械設備の保全業務に携わり会社に貢献する。社内の人望も厚く、当社の模範社員となっています。

石田　瑞生
いし だ　　みず お

竹内工業株式会社
製造部　生産グループ
GM（課長）

・推せん理由

上記の者は、38歳の時途中入社し、プレス工場作業者から始まり前職の経験を活かし、プレス工場の班長、その後、工務の係長を経て現在のGM職に就き、生産計画の作成･実施･検証・改善を担当しています。現在では生産基盤強化活動の推進に努め、可動率・直行率改善のために作業者とのコミュニケーション、作業改善及び他グループとの改善調整により実績を上げ、今年度の目標に対し大きく貢献しています。上記事由にて表彰候補に値すると判断し、ここに推薦致します。

丹羽　達郎
に わ　　たつ お

光精工株式会社
製造部　員弁2課
ギヤブッシュ班

・推せん理由

入社以来、長年タペット・ギヤブッシュに携わり旋削・研削業務に精通し、製造部として会社に大いに貢献している。誠実・温厚な人柄で、班員とよく協調して人望が厚い。

片桐　明
かた ぎり　　あきら

株式会社
東海スプリング製作所
製造部　生産一室　室長

・推せん理由

片桐明君は、生産技術部門で第一人者として設備開発、合理化を通して技術力の向上を図り当社の事業拡大に多大な貢献をしてくれました。その能力と実績を認められ現在、製造の室長として活躍中です。今後、更に会社発展の力になってくれる人物として推薦致します。

河瀬　敦之
かわ せ　　あつ し

福寿工業株式会社
情報管理グループ
グループリーダー代理

・推せん理由

情報管理グループ　総務・人事グループリーダー代理として採用、社員教育の企画・実施を始め、総務全般に亘る業務に寄与すると共に、部下から指導力を高く評価されています。模範社員として推薦します。

柴田　美貴
しば た　　よし き

光精工株式会社
生産技術部
ものづくり　主任

・推せん理由

入社時に生産現場を経験し、その後、技術部門へ移籍した。現在はものづくり部門である工機部の監督者として、試作・少量品の加工に精通し、よくその職責を果たしている。

高木　秀之
たか ぎ　　ひで ゆき

三井屋工業株式会社
製造部　保全課　係長

・推せん理由

入社当初より生準業務を担当する傍らで、新規設備導入や工程改善活動に尽力してきた。近年では永年培った知識と経験を活かし、保全課係長として設備予防保全活動を通じて後進の育成に取り組んでいる。

住田　高志
すみだ　たかし

三井屋工業株式会社
製造部　本社工場製造課
一般

・推せん理由

入社以来34年の永きにわたり、一貫して工場での生産業務に従事。仕事ぶりはまじめで周りからの信頼は厚い。先輩従業員として仕上げグループの日々の工程改善や5S活動を通じて後進の指導・育成に取り組んでいる。

藤安　健太郎
ふじやす　けんたろう

やまと興業　株式会社
商品部　商品開発課　課長

・推せん理由

商品開発課の課長としてLED関連商品の開発、拡販に携わりコンサートやテーマパーク用のLEDグッズやイルミネーション、物育成用光源等で多数の新商品開発を手掛けている。又、LED活用技術において多くのアイデアを具現化し7件の特許出願件数を誇る。

山内　道夫
やまうち　みちお

株式会社　メイドー
技術部　生産技術課　課長

・推せん理由

平成8年入社以来、生産技術課に所属し、新規生産に伴う新設設備の導入や、既存設備の改装などエンジニアとしての力をいかんなく発揮し、作業能率の改善増進などにより、著しい生産性向上に貢献した。さらに、生産技術課の課長として、組織を良く掌握し、社業の振興に寄与した。

（関　西）

香西　正彦
こうざい　まさひこ

株式会社　神菱
業務部　事業グループ
調達チーム係長

・推せん理由

入社以来、設計部門、品質部門と新規開発業務、品質体制作りに貢献し、現在は部品調達部門の係長として、収益改善活動に貢献した事を評価する。

福島　公明
ふくしま　きみあき

シグマ株式会社
メタル事業部　1課　課長

・推せん理由

会社の主力加工技術である冷間鍛造加工技術の向上に生産現場で従事し、社内で修得した切削・研削技術を活かし、鍛造加工の後工程である切削・研削工程にも配慮した金型改善で効果を上げ、生産性と品質の向上に寄与した。また、部下の育成に積極的に取り組み成果を上げている。

河本　芳也
かわ もと　　よし や

新興工業株式会社
製造部　工場技術課　主任

・推せん理由

社内外共に部品加工に於ける製造工程のQCDSに精通した加工技術を持ち、グローバルに最も活躍している人財である。現場からの人望も厚く、日々、発明考案及び現場の改善に最大限尽力している。自部門の同僚・先輩社員のみならず、周囲からの評価が高く、模範従業員であると認められる。

篠原　和則
しの はら　　かず のり

日立オートモティブ
システムズ阪神株式会社
調達部　調達Gr　主任

・推せん理由

入社当初より調達部門に配属となり、電装製品・電子製品の調達業務を担当し収益向上に貢献した。また現在は調達管理業務を担当し、企業基盤の構築を推進している。この間、労働組合委員長として4年間組合活動にも貢献した。

山根　裕二
やま ね　　ゆう じ

新興工業株式会社
製造部　第一工作課　課長

・推せん理由

プロペラシャフトの生産に関する溶接、組立、塗装に至るすべての製造技術および理論に精通しており、極めて優秀である。現場における改善を立案、遂行し、生産改善に寄与している。また、人間性も優れ、直属の部下のみならず、他部門からの人望も厚い。

香川　智
か がわ　　さとし

三乗工業株式会社
生産部　製造一課
課長代理　兼　組立班　班長

・推せん理由

入社以来勤続35年余りを経て、自社製品の多くの生産に携わり知識と技術を身に着け各職場で班長を熟し、近年は職場を超えてリーダー的役割で部下や後輩の指導育成に能力を発揮している。さらに、積極的に改善活動に取り組み、品質並びに生産性向上に貢献し、上司や同僚、部下からも厚く信頼されている。

石井　耕治
いし い　　こう じ

日本フレックス工業株式会社
開発部　開発課　課長代理

・推せん理由

入社以来、開発部門にて商品開発や設備開発に取り組み、特に設備開発に於ては、自動車用ドアロックケーブルの軽量化、柔軟性、コスト低減を追求し、加工工程の自動化を達成した。現在も更なる生産性向上、品質向上に取り組んでいる。

藤原　裕和
ふじ わら　　ひろ かず

リンテックス株式会社
生産技術グループ　主務

・推せん理由

中国工場（広州市）の量産立上げ（2006年10月）以降、設備保全に関する技術について、中国人スタッフへの教育を主体に取組んだ。それを通して設備稼働率の向上に関し多大な貢献を果し、日本と同等の生産性になるまでレベルアップさせた。

世界経済の成長鈍化とインフラ投資への期待

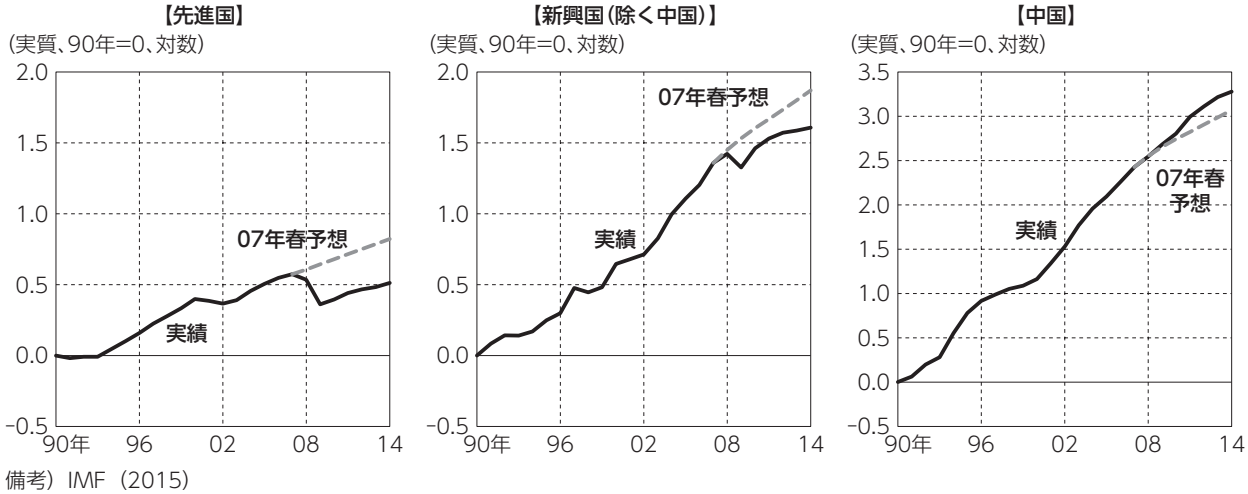
2015年4月に公表されたIMF（国際通貨基金）の見通しでは、世界経済の成長率は15年3.5％増、16年3.8％増と回復基調が続くものの、そのペースは緩やかにとどまるとされた。この背景として、IMFは中長期的な成長期待の低下を指摘している。

近年、元米財務長官であるハーバード大学のサマーズ教授が、先進国の長期停滞論を主張し、注目を集めている。長期均衡状態（長期的に持続可能な安定成長の状態）での実質利回りである自然利子率がマイナスに陥ったため、金融政策で自然利子率を下回る金利が生み出せなくなり、投資を抑制し、経済が停滞から抜け出せなくなったと説明する。自然利子率が低下した原因としては、貯蓄が潤沢な一方で人口高齢化の進展や、技術革新ペースの鈍化で投資対象が十分に拡大せず、貯蓄超過となったことなど、様々な可能性が挙げられている。

長期停滞論を巡っては、バーナンキ前FRB議長を含めた経済学者の論争が続いており、リーマン・ショック後の停滞が長期的な現象なのか一時的なものなのか、未だ結論には至っていないが、いずれにせよ、リーマン・ショック以降の民間投資は、先進国、新興国ともに2007年春時点のIMF見通しを大きく下回って落ち込み、その後の回復ペースも緩慢になっている（図1）。唯一、中国だけが大規模経済対策によって予想を上回る投資が行われたが、これが過剰設備問題をもたらし、足元では投資の減速が顕著になっている。IMFでは、こうした世界的な民間投資の弱さは、需要面から成長ペースを鈍化させただけでなく、成長期待の低下を通じて、その後の投資が抑制されるという悪循環を生んだと指摘している。

こうした中、インフラ投資の促進による経済成長ペース押し上げへの期待が高まっている。インフラ投資は直接な需要創出効果だけ

図1　世界の民間投資



備考）IMF（2015）

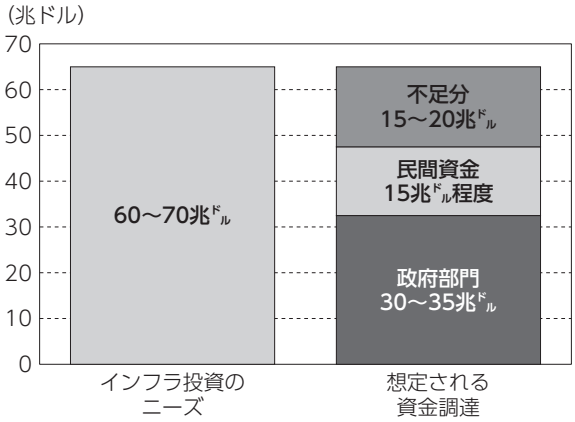
ではなく、供給力の強化を通じて、中長期的な成長を加速させる。先進国では、インフラ投資の拡大は短期的にはリーマン・ショック後に生じた需給ギャップを縮小する助けになるとともに、老朽化したインフラの更新を通じて成長力を引き上げることが期待できる。一方、新興国では、急速な経済成長に伴う産業インフラの不足に加えて、人口集中に対して都市インフラが不足しており、これらの制約を軽減することで潜在成長率の引き上げを通じた長期的な効果が見込まれる。

14年2月のG20財務相・中央銀行総裁会議では、14年から18年までの5年間でG20のGDP総量を2％（2兆ドル）底上げする目標が合意された。その手段の一つとしてインフラ投資が挙げられており、今年4月に開かれたG20では、9月までに投資戦略を策定することが声明文に盛り込まれた。G20では、2030年までに世界で累計60～70兆ドルのインフラ投資ニーズがあると推計しており、これが実行されれば、G20のGDP底上げ目標が達成できるとしている。

しかし、こうしたインフラ投資の推進にあたっては、事業の精査やメンテナンスまでの適切な実施体制が欠かせない上、資金調達面でも課題が残っている。現在の財政状況を前提とすると政府は30～35兆ドル分しか投資できず、民間資金の活用で15兆程度を補っても、15～20兆ドル程度の資金が不足するとみられる（図2）。

とくに新興国では資金不足が深刻である。G20とは計算の前提が異なるものの、アジア開発銀行（ADB）は、アジア地域の潜在的なインフラ投資ニーズは、2010～20年の10年間に累計8兆ドル（08年価格）に上ると試算している。しかし、アジア新興国の多くは政府の財政基盤が弱いほか、国内の貯蓄が脆弱であり、投資余力がない。また、世界銀行やアジア開発銀行などの国際金融機関からも資金調達を行っているが、年間数百億ドルにとどまり、上記のニーズを満たすには十分ではない。

図2　世界のインフラ投資のニーズと資金調達（2030年までの累計）



備考）G20（2014）

こうした潜在的なインフラニーズを背景に、今年に入り、中国の主導によりアジアインフラ投資銀行（AIIB）が設立されたほか、日本はアジア開発銀行と連携して今後5年間に1,100億ドルの投資を行うと表明した。償還や配当を前提とする金融支援においては、事業の選定だけでなく、着実な遂行に向けて事業の中身にも関与していくことが重要となる。短期的にはインフラ整備の資金ニーズに対応するとともに、中長期的にはインフラが着実にその役割を果たすことで、成長期待が高まり、民間投資が引き出されるという好循環が期待される。

参考文献：

日本政策投資銀行（2015）*DBJ Monthly Overview*, 5月。
ADB（2009）*Infrastructure for a Seamless Asia.*
G20（2014）*B20 Infrastructure & Investment Taskforce Policy Summary,* G20 Australia, July 2014.
IMF（2015）“Uneven Growth: Short-and Long-Term Factors,” *World Economic Outlook,* April 2015.
Summers, Lawrence H.（2014）“U.S. Economic Prospects: Secular Stagnation, Hysteresis, and the Zero Lower Bound” *Business Economics,* NABE, Vol.49, No.2.

工業会業務レポート

委員会活動

業務部

●業務報告〔4/16～6/15〕

4月16日　経営調査部会 講演会　テーマ：「自動車業界～2014年度の振り返りと2015年度の展望」 講師：シティグループ証券㈱株式調査部 ディレクター 吉田有史様（くるまプラザ）

4月17日　経営調査部会 講演会　テーマ：「自動車業界～2014年度の振り返りと2015年度の展望」 講師：シティグループ証券㈱株式調査部 ディレクター 吉田有史様（名古屋栄ビルディング）

5月13日　労務部会 講演会　テーマ：「キャリア形成促進助成金について」 講師：厚生労働省 職業能力開発局 育成支援課 課長補佐 田中浩一様（部品会館）

5月25日　経営調査部会　上場企業82社の平成26年度の自動車部品工業の経営動向調査結果（案）について検討を行った。（部品会館）

6月5日　総務委員会　上場企業82社の平成26年度の自動車部品工業の経営動向について検討を行った。（部品会館）

6月10日　技術展示商談会　会員企業25社による第14回技術展示商談会を開催した。来場者は341名。（川崎重工業㈱ 明石工場）

●行事予定〔7/16～9/15〕

7月31日　中小企業施策委員会（八芳園）

8月21日　中小企業施策委員会 工場見学会（トヨタ自動車東日本㈱ 本社・大衡工場）

8月27日　経営調査部会（部品会館）

9月11日　総務委員会（部品会館）

総務部

●業務報告〔4/16～6/15〕

4月21日　会計監査　平成26年度決算内容について審議（部工会）

4月23日　正副会長等打合せ会、理事会　平成26年度事業報告、決算について審議（経団連会館）

5月28日　通常総会　平成26年度事業報告、決算の承認、平成27年度事業計画、予算の承認他、（グランドプリンスホテル高輪）

●行事予定〔7/16～9/15〕

7月17日　理事懇談会　主要委員会活動報告他、講演会（京都ホテルオークラ）

国際部

●業務報告〔4/16～6/15〕

5月15日　FTA・通商部会　1）最近の動向（経済産業省 自動車課） 2）本年度事業の進捗「（仮称）FTA関税データベース」（旧EPAマトリックス）進捗状況・WTO環境物品交渉 進捗状況（資料・中小企業施策委員会への事業説明について・関税分類番号改正への対応について　3）トピックス中南米の動向（メキシコ、ブラジル） 4）ASEAN地域におけるプラスワンの検討（JAPIAカンボジア・ラオス視察報告）（部品会館）

5月19日　AEOセミナー（名古屋） AEO制度の説明（制度の概要、認定事業者のベネフィット、認定事業者の要件 他）（名古屋栄ビル）

5月20日　（仮称）FTA/EPA導入のポイントセミナー（東京）（仮称）FTA/EPAを社内へ導入する際のポイントを解説するセミナー（部品会館）

5月20日　FTA関税データベース説明会（東京） FTA関税データベースに関する全会員向け概要説明会（部品会館）

5月22日　（仮称）FTA/EPA導入のポイントセミナー（名古屋）（仮称）FTA/EPAを社内へ導入する際のポイントを解説するセミナー（名古屋栄ビル）

5月22日　FTA関税データベース説明会（名古屋） FTA関税データベースに関する全会員向け概要説明会（名古屋栄ビル）

5月29日　知的財産権部会　1. 知財関連事項の説明（経済産業省 模倣品対策室、特許庁） 2.【報告】WGの活動について（特許研究WG、中国以外向け活動検討WG、中国向け活動検討WG） 3.【意見交換】2015年度知的財産権部会活動について（知的財産部の社内広報の研究、知財教育の調査・研究）【講演】模倣対策ツール紹介（部品会館）

●行事予定〔7/16～9/15〕

7月24日　知的財産権部会　1. 知財関連事項の説明（経済産業省 模倣品対策室、特許庁） 2.【報告】WGの活動進捗について 他（部品会館）

8月下旬　FTA・通商部会　1）最近の動向　2）本年度事業の進捗状況（部品会館）

関東支部

●業務報告〔4/16～6/15〕

4月21日　会計監査（部品会館）

5月28日　第1回運営委員会（グランドプリンスホテル高輪）

5月28日　通常年次会（グランドプリンスホテル高輪）

6月4日　第1回関東支部企画部会（㈱マーレフィルターシステムズ）

●行事予定〔7/16～9/15〕

7月16日　自動車メーカー工場見学会（トヨタ自動車㈱ 元町工場）

7月23日　第2回運営委員会（八芳園）

7月23日　講演会 「グローバル経営を成功させるリスクマネジメント（仮題）」 コンサルビューション株式会社 代表取締役社長 高原彦二郎様（八芳園）

7月29日　産業実地研修（自動車部品産業理解促進事業）専門高校教員を対象とした工場見学及び意見交換等（KYB㈱ 相模工場）

中部支部

●業務報告〔4/16～6/15〕

4月16日　第1回運営委員会　・平成26年度事業報告案および決算案承認　・平成27年度事業計画案および予算案承認（ヒルトン名古屋）

5月15日　平成27年度通常年次会　・平成26年度事業報告および決算承認　・平成27年度事業計画および予算承認（ウェスティンナゴヤキャッスル）

5月28～29日　ISO/TS16949:2009 内部監査員2日間セミナー（刈谷市産業振興センター）

5月28～29日　ISO9001:2008 内部監査員2日間セミナー（刈谷市産業振興センター）

6月12日　活動計画検討会（中小企業部会） 2015年度活動計画の検討と策定（名古屋栄ビル）

●行事予定〔7/16～9/15〕

8月19日　結団式　海外視察結団式（名古屋マリオットアソシアホテル）

9月5日～13日
北米自動車産業視察（デトロイト･シンシナティ･インディアナポリス）

関西支部

●業務報告〔4/16～6/15〕

5月14日　第1回正副支部長会・関西支部 年次会・情報交換会・講演会・懇親会 「パワートレイン技術の現状と方向性」 ㈱日本自動車部品総合研究所 専務取締役 古野志健男氏（リーガロイヤルホテル大阪）

5月15日　品質分科会　ISO/TS16949:2009 規格解説セミナー（エル・おおさか）

5月19日　品質分科会　講演会・懇談会 「チャイナハラスメント―中国にむしられる日本企業」 元 中国重慶長安鈴木汽車有限公司 総経理／北京事務所 主席代表 松原邦久氏（リーガロイヤルホテル大阪）

5月21日～22日
品質分科会　ISO/TS16949:2009 AIAG, コアツール実践2日間セミナー（エル・おおさか）

●行事予定〔7/16～9/15〕

7月17日　第2回正副支部長会・第1回運営委員会・情報交換会（京都ホテルオークラ）

8月26日　品質分科会　勉強会 「水素燃料とFCV兼ミライ試乗会」

9月4日　総務分科会　勉強会（㈱エクセディ）

9月10日　経営研修会　勉強会 「外国メーカー情報」

技術関係委員会等の開催状況 (4／16～6／15)

1. 総合技術委員会

日　時	会　議　名	開催場所	概　要
6月11日	平成27年度 第1回総合技術委員会	自動車部品会館	1）環境問題への対応について 2）電子情報化への対応について 3）基準・認証制度への対応について 4）その他 各委員の情報交換

2. 基準認証部会関係

日　時	会　議　名	開催場所	概　要
5月13日	基準認証部会 中国WG	自動車部品会館	1）JAMAへの要望事項について 2）最新の車両メーカ動向について 3）新実施規則適用にもとづく課題について 4）中国WG構成メンバーの確認
5月14日	基準認証部会 台湾WG	自動車部品会館	1）台湾ミッション実施について 2）台湾認証機関に対する要望・質問等取りまとめ 3）WGメンバーの確認
5月14日	基準認証部会 ASEAN WG	自動車部品会館	1）WGの構成、主査選出について 2）今年度の活動計画について
5月26日	基準認証部会 QRTV-WG	自動車部品会館	1）前回のJASIC会議報告 （騒音分科会・QRTV国内対応会議）について 2）ドラフトUN/ECE基準案の議論状況について
5月28日	基準認証部会 インドWG	自動車部品会館	1）WGの構成、主査選出について 2）今年度の活動計画について
6月10日	基準認証部会	自動車部品会館	1）インドWG 活動状況 2）中国WG 活動状況 3）ASEAN-WG 活動状況 4）台湾WG活動状況 5）各国情報 6）JASIC情報

3. IT対応委員会関係

日　時	会　議　名	開催場所	概　要
4月16日	DE促進部会	自動車部品会館	1）全体報告について 2）WG報告について 3）幹事会報告について 4）その他（困り事相談、情報交換等） 5）WG活動
5月21日	DE促進部会	自動車部品会館	1）全体報告について 2）WG報告について 3）幹事会報告について 4）その他（困り事相談、情報交換等） 5）WG活動
5月27日	EDI部会	自動車部品会館	1）平成27年度の活動計画について
	IT対応委員会幹事会	自動車部品会館	1）平成27年度の活動計画について
6月2日	IT対応委員会	自動車部品会館	1）平成27年度のIT対応委員会幹事会活動について 2）平成27年度のEDI部会活動について 3）平成27年度のDE促進部会活動について

4. 環境対応委員会関係

日　時	会　議　名	開催場所	概　要
4月16日	製品環境部会幹事会	自動車部品会館	1）銅合金ステークホルダー会議・結果 2）CATARC主催・国際フォーラム紹介 3）サプライヤアライアンス会議・事前報告 4）J-IMDS-SC・報告 5）ACEA・プロミスケミカルリストの動き
4月20日	ガイダンスグループ	自動車部品会館	1）ガイダンス作成・改訂作業について 2）2015年度の活動日程計画
4月20日	法規制調査グループ	自動車部品会館	1）法規一覧の改訂作業について 2）2015年度の活動日程計画
4月20日	工場用化学物質分科会	自動車部品会館	1）全体計画進捗説明 2）欧州対応説明と質疑応答
4月23日	環境保全分科会	自動車部品会館	1）平成27年度活動計画、中期活動計画案について 2）活動内容について 3）各社のグローバルでの不具合・対応策の情報報告
4月27日	鉛規制対応分科会幹事会	自動車部品会館	1）第7回・第8回改正関連 2）電機・電子4団体RoHSアドホックについて 3）パネルディスカッションについて
5月7日	環境対応委員会幹事会	刈谷市産業振興センター	1）各部会・分科会 他の年度活動計画の推進状況及びトピック 2）総合技術委員会及び理事会での報告
5月18日	化学物質規制対応分科会幹事会	自動車部品会館	1）分科会の15年度計画 2）各国法規制動向 3）物質精査活動 4）自工会情報 5）欧州情報（欧州BPRガイドライン等） 6）部工会パネルディスカッション
5月19日	鉛規制対応分科会幹事会	自動車部品会館	1）EU ELV適用除外見直し 対応状況 2）関連情報の展開（自工会、電機・電子業界） 3）今後の進め方
5月20日	LCA使用段階負荷算出WG	自動車部品会館	1）H27年度-活動計画の確認 2）前回宿題の発表（使用段階の使用時間シナリオと計算結果） 3）重量、電流、動力／摩擦の負荷計算方法
5月22日	製品環境部会幹事会	自動車部品会館	1）CATARC主催・国際フォーラム紹介 2）サプライヤアライアンスメンバー結果・報告 3）CLEPAイベント結果・報告 4）IMDS-SC with suppliers結果・報告 5）総合技術委員会での報告内容 6）部工会・パネルディスカッション
5月25日	省エネ情報事例展開TF	自動車部品会館	1）今期の活動計画について 2）夏季省エネ事例マップの作成について 3）省エネ勉強会アンケートの結果と今期活動への反映について
	環境対応委員会	自動車部品会館	1）総合技術委員会及び理事会での報告 2）各部会・分科会の今年度活動状況の報告 3）事務局情報
5月28日	化学物質規制対応分科会	自動車部品会館	1）2015年度の活動計画 2）各国法規制動向 3）規制物質の精査活動 4）欧州BPRの自動車業界ガイドライン 5）若手育成パネルディスカッション 6）その他（欧州ELV鉛除外規定見直し等）
5月29日	製品環境部会	自動車部品会館	1）CATARC主催・国際フォーラム報告 2）サプライヤアライアンス報告 3）CLEPAイベント報告 4）IMDS-SC with suppliers報告 5）総合技術委員会報告内容 6）部工会若手育成パネルディスカッション
6月15日	鉛規制対応分科会	自動車部品会館	1）EU ELV適用除外見直し 対応状況 2）関連情報の展開（自工会、電機・電子業界） 3）今後の進め方

5. 品目別部会関係

日　時	会　議　名	開催場所	概　要
4月21日	電線部会	自動車部品会館	1）前回議事録確認について 2）第66回ISO国際会議、アクションアイテム対応審議について 3）0.5sqアルミ電線の要求特性対応審議について 4）JASO D603アルミ電線規格、一時案修正審議について
4月22日	ITS部会幹事会	自動車部品会館	1）アンケートの結果について 2）イベントのケーススタディについて 3）過去の支出について（活動経費の検討）
4月27日	チャイルドシート分科会	自動車部品会館	1）平成27年度活動計画案 2）GRSP報告
5月12日	GTB対応会議	自動車部品会館	1）第119回GTB会議（5/18-22@ブルージュ）での 審議内容と対応方針について
	ランプ部会	自動車部品会館	1）鉛フリーガラス対応について 2）第73会GRE会議（4/13-17@ジュネーブ）の結果報告について 4）JAPIA/基準認証部会-ASEAN出張報告について 5）平成26年度ランプ部会の収支報告について 7）平成27年度ランプ部会の活動計画について
5月18日	車輪技術部会及び タイヤ・リム合同会議	自動車部品会館	1）ISO, JIS対応について 2）2016年版JATMA YEAR BOOK R章改正について 3）ホイールの各国部品認証対応について 4）自技会関連について
5月22日	PT熱交換器分科会	自動車部品会館	1）15年度メンバー紹介 2）15年度活動内容の確認 3）自技会（規格見直し）についての各社意見交換 4）分科会長の交代 5）分科会会費について
5月29日	電線部会	自動車部品会館	1）前回議事録の確認について 2）第66回ISO国際会議（韓国釜山）出席報告について 3）アクションアイテム確認と対応審議について 4）0.5sqアルミ電線の要求特性対応審議について 4）JASO D603アルミ電線規格、一時案修正審議について
	オイルシール技術部会	自動車部品会館	1）JIS-ISO整合化作業について 2）ISO審議状況等 3）見学会企画について
6月1日	摩擦材技術部会	自動車部品会館	1）部会委員の確認 2）ISO国際会議出席報告と自技会ライニング分科会について 3）ISO/PAS22574の投票について（PASからISO規格への是非）
6月5日	レストレイント部会 幹事会	自動車部品会館	1）平成26年度部会・委員会決算報告 2）平成27年度部会・委員会活動計画・予算案 3）平成27年度部会春季合同会議開催計画 4）部会・委員会役員 部会派遣委員等について
	ランプ部会	自動車部品会館	1）ISO見直しについて
6月12日	GTB対応会議	自動車部品会館	1）第119回GTB会議（5/18-22@ブルージュ）での 審議結果と今後の課題について
6月12日 ～13日	シート部会合同会議	金沢	1）平成26年度部会・分科会活動報告 2）平成26年度部会決算報告 3）平成27年度部会・分科会活動計画案 4）平成27年度部会予算案 5）第18回シート技術研究発表会開催計画 6）報告事項（基準認証部会関連、JASIC衝撃吸収分科会）

●行事予定〔7/16～9/15〕

月　日	会合名称など	概　要	場　所
7月16日	電線部会		自動車部品会館
7月23日	DE促進部会幹事会		自動車部品会館
〃	DE促進部会		自動車部品会館
〃	化学物質規制対応分科会		自動車部品会館
7月24日	製品環境部会幹事会		自動車部品会館
7月27日	PT熱交換器分科会		自動車部品会館
7月30日	JAMAシート分科会幹事会		自動車部品会館
7月31日	電線部会		自動車部品会館
8月21日	DE促進部会幹事会		自動車部品会館
〃	DE促進部会		自動車部品会館
8月24日	製品環境部会幹事会		自動車部品会館
8月25日	製品環境部会		自動車部品会館
8月26日	基準認証部会		自動車部品会館
8月28日	クッション性分科会		自動車部品会館
9月3日	H27年度第2回総合技術委員会		自動車部品会館
〃	電線部会		自動車部品会館
9月11日	シート部会		自動車部品会館

平成27年春の叙勲・褒章

〔部工会推薦の方のみ掲載〕

平成27年春の叙勲・褒章の受章者の方は下記の方々です。
経済産業省の叙勲伝達式は、5月12日（火）、厚生労働省の褒章授与式は、5月15日（金）にそれぞれ行われました。

旭日小綬章

判治　誠吾 氏

大同メタル工業株式会社
代表取締役会長兼最高経営責任者

黄綬褒章

松井　茂樹 氏

株式会社デンソー技研センター
デンソー工業学園　学園長

会員企業紹介 **内山工業 株式会社**

顧客の困りごとを全て解決する根幹は密封と絶縁

地域そして従業員から愛される会社に
創立 117 周年の新たな伝統

内山兼三社長

会社プロフィール

本　　部　〒703-8588　岡山県岡山市中区小橋町 2-1-10
TEL.086-272-7557　FAX.086-272-1145　URL.http://www.umc-net.co.jp

資 本 金　1 億 2,000 万円

従 業 員　898 人（グループ 4,928 人）（2014.10 時点）

事業所拠点　本社／岡山県岡山市中区江並 338、赤坂研究所／岡山県赤磐市大苅田 1106-11、岡山第一工場／岡山県岡山市中区江並 338、邑久工場／岡山県瀬戸内市邑久町豆田 1168、御津工場／岡山県岡山市北区御津河内 153-3、牛窓工場／岡山県瀬戸内市牛窓町長浜 6885-10、赤坂工場／岡山県赤磐市山口 2121、ウチヤマ・ロジスティクス・センター／岡山県岡山市中区江並 428、茅ケ崎工場／神奈川県茅ケ崎市下町屋 1-2-1、東京支店／東京都港区芝大門 2-1-16（芝大門 MF ビル 3F）、大阪支店／大阪府大阪市中央区西心斎橋 1-15-7（心斎橋アサノビル）、名古屋支店／愛知県名古屋市千種区井上町 49-1（名古屋星ヶ丘ビル）、広島営業所／広島県広島市中区東平塚町 1-14（大興平塚ビル）※生産拠点／国内 18、海外 7、営業拠点／国内 5、海外 5

代 表 者　取締役社長　内山兼三

コルク栓の製造が発祥となる内山工業の創業は1898年。初代の内山新太郎氏が兵庫県佐用郡に「内山コロップ製造処」を創設したのがはじまりで、6月15日に創立117周年を迎えた。ワインやウイスキーに用いられるコルク栓の製造ではいまや国内唯一のメーカーだが、自動車とも国内自動車製造の黎明期からかかわりをもつ。1930年代に豊田喜一郎氏をはじめとする豊田自動織機が手掛けた国産乗用車「トヨダ・AA型」のガスケット製作の依頼を受け、試作品を持ち込み製品化に結び付けたという。まさに、日本の自動車産業のはじまりから密接な関係を結んできたといえる。

伝統と新技術の両立

「ガスケット・シール材」、「建材・断熱材」、「コルク栓・王冠栓」を三本柱とする同社。その根幹となるのが大きなこだわりである『密封と絶縁』だ。1930年には産業用に用いる耐油性圧搾コルクを、50年にはコルクラバーガスケットを日本ではじめて開発。密封と絶縁へのこだわりを商品化してきた。1990年代にはABS（アンチロックブレーキシステム）の普及に大きく貢献した「アキシャルエンコーダ」を開発、国内特許も取得した。ホイル用ベアリングシールの構成部品に磁性材料を混合・

樹脂部品

エンコーダー

成形し多極磁化した磁性ゴムを使用し、高精度の回転情報を検出できるようにした。ABS用の回転を検出する従来の金属製品に比べ軽量、コンパクト化を実現。12年には「ものづくり日本大賞」優秀賞を受賞、14年には「グローバルニッチトップ100選」にも選ばれている。

あらゆるコミュニケーションを重視

「お客様のお困りごとを全て解決したい」とする内山社長。最前線の困りごとの解決を重視する。このため、社内的にも日々のコミュニケーションを重視しており、製販会議や営業情報などは全社で共有し、あらたな製品の開発・販売に結び付けている。既存製品のシェア向上を図るとともに、新たな製品によって新規顧客を獲得する「攻めと守り」の双方を強化する考えだ。エンジニアリングプラスチック（樹脂機能部品）も次世代を担う大きな柱で、ウォータージャケットスペーサーは燃費の改善に大きく貢献。軽量化やコンパクト化に効果を発揮するモジュール製品の販売拡大にも注力する考えだ。次世代自動車の開発も加速しており、燃料電池自動車のセパレーター用ガスケットもすでに開発、今後の水素社会の到来に備える。

工場内

グローバル展開は次のステップへ

海外は米国をはじめ欧州、中国、東南アジア、インドと多方面に展開。今年4月には米国に研究所を開設した。海外展開はほぼ一段落したとするものの、将来的には欧州にも開発拠点の開設を検討する。一方でグローバルな人材のために数年前から社内での英会話教室がスタート。TOEICの受験対策講座も開く。

有用な人材を一人でも多く集めるためには知名度の向上も必須条件だ。同社では広告戦略を見直し地元でのテレビコマーシャルから転換、市内を走る路面電車のペイント化や、大型商業施設でのアンテナショップの展開などにも取り組む。働いている人たちが家族に自慢できるためにも知名度の向上は大切だとの思いもある。地元スポーツへの貢献もその一環となる。年に数回、ホームゲームには社員が一体となって応援に向かう。内山社長は「いかに安全に幸せを感じてもらえるか。働いていてよかったと、息子さんや娘さんも当社に入社させたくなる愛着を持っていただける会社にしたい」とする。

ウチヤマアメリカ販売（デトロイト）

vol. 113 北米事務所だより

Novi, Michigan

4月の北米は自動車産業イベントが盛りだくさん

JAPIA 北米事務所　河島 哲則

4月は初旬、中旬、そして下旬と別々のイベントがありました。月の初めにニューヨーク・オートショーへ出かけ、月の半ばにはメキシコシティへメキシコ国際自動車会議（CIIAM）に参加しました。そして月の後半にはデトロイトのダウンタウンで自動車技術者協会世界会議（SAE World Congress）がありました。

ニューヨーク・オートショーで発表されたコンセプトカーの中で目立っていたのはリンカーン・コンチネンタル、懐かしい名前の復活でした。欧州車に多い数字とアルファベットを組み合わせた符号のようなモデル名が大嫌いな私はアメリカが世界に誇る伝統的なクルマの名前のひとつがカムバックしてくれるのを心待ちにしています。少なくともアメリカと日本のクルマに符号の名前は似合わないと私はいつも思っています。

年間生産台数が300万台を超えたメキシコは400万台、500万台を目指して発展しています。でもメキシコシティは相変わらずの大渋滞でした。全く動かないクルマの中で同乗していたメキシコ自動車部品工業会INAのアルビン専務理事に、「こんなにクルマがあって身動きがとれないのに、貴方たちはもっとクルマを造ろうというのですか」と冗談を向けると、「そうだよ、多くの国へ輸出するためにね」という答えが返ってきました。国際会議のパネルディスカッションのひとつに私もパネリストとして参加したのですが、会議開催中にトヨタがメキシコ新工場の建設計画を発表、またフォードも新しいエンジンとトランスミッションを造るためにメキシコへの巨額投資を発表しました。メキシコはまさにお祭り騒ぎです。確かに最近メキシコシティの市街を走るクルマのレベルと新しさが以前よりずっと上がっています。この産業がこの国の人々を豊かにしてくれることを心から願います。

そしてSAE World Congress。ホスト・カンパニーのホンダはイベント中日に、今年1月のデトロイト・オートショーで生産モデルをお披露目した同社のアキュラ部門がオハイオ州で手造りするスーパーカー、NSXの展示と技術プレゼンテーションを行いました。日本の自動車メーカーが米国でスーパーカーを造り、それをデトロイトで披露する、何とも象徴的なイベントでした。

自動車産業は世界中で目まぐるしく変化しています。北米3カ国でもそれは明らかです。各国でたくさんのクルマを売る自動車メーカー各社には、どうか画一的なつまらないクルマや「環境に優しい移動手段」というクルマばかりでなく、様々な国の様々な人々の役に立つクルマ、そして少しずつ豊かになるにつれ「乗って、運転する」ことが楽しいクルマをたくさん生み出して欲しいものです。

〈完〉

リンカーン・コンチネンタル・コンセプト

アキュラNSX

日刊自動車新聞　NEWSダイジェスト 4 5 6月

▶▶日刊自動車新聞の主要ニュースから部品業界の動きを追う　※（　）内の数字は掲載日付

行政・団体

4月

■中小・零細支援　国も本腰、高度化から省エネ投資（25日）
好調な世界販売や円安で業績改善が進む自動車産業。

■自動車業界からも春の褒章、内山田竹志氏（トヨタ会長）らに藍綬（28日）

■政府、春の叙勲を発令（30日）
政府は、2015年春の叙勲を発令した。

5月

■経産省と環境省、2030年度時点での温室効果ガス削減目標（1日）
経済産業省と環境省は、2030年度時点での温室効果ガス削減目標を13年度比で26.0％削減するとの政府目標案をまとめた。

■環境省、ESG投資の環境整備　今年度に運用実態調査（11日）
環境省は「ESG投資」の環境整備に力を入れる。

■AICE、エンジン評価基準統一　共同研究・開発を加速（12日）
自動車メーカー9社などで組織する自動車用内燃機関技術研究組合（AICE）は、今後3年以内にエンジンの性能評価に関する統一基準を策定する。

■高温ガス炉官民協議会、自動車メーカーも参画（12日）
安く大量に水素を生み出せる次世代原子炉「高温ガス炉」の実用化に向け、トヨタ自動車など自動車メーカーも加わる官民の協議会がこのほど発足した。

■国交省、交通事故自動通報装置　義務化も視野に普及策（13日）
国土交通省は、交通事故自動通報装置（ACN）の普及策づくりに乗り出す。

■国交省、タカタ製エアバック改修率、4月末で76%（14日）
国土交通省は、タカタ製エアバッグのリコール（回収・無償修理）進ちょく状況を公表した。

■政府、官民ITS構想見直し　用途やサービスで具体像（15日）
政府は「官民ITS構想・ロードマップ」を見直す。開発の柱である「自動運転」と「交通データ利用」について、用途やサービスの具体像を明確にする。

■ホンダとダイハツ工業、タカタ製エアバックで新たなリコール（15日）
ホンダとダイハツ工業は、タカタ製エアバッグに関する新たなリコール（回収・無償修理）を国土交通省に届け出た。

■政府、「ロボット革命イニシアティブ協議会」発足（18日）
ロボットによる新たな産業革命の実現を目指す「ロボット革命イニシアティブ協議会」が発足した。

■政府、サウジと「オフセット・クレジット制度」構築で合意（20日）
日本政府はこのほど、サウジアラビアと「二国間オフセット・クレジット制度（JCM）」の構築で合意した。

■マツダ・富士重工業・三菱自動車もタカタ製エアバック追加リコール（23日）
タカタ製エアバッグの不具合に関連し、マツダと富士重工業、三菱自動車の3社が、合わせて約31万3千台分の新たなリコール（回収・無償修理）を国土交通省に届け出た。

■政府、IoT活用へガイドライン　自動車セキュリティー対策支援（26日）
政府は、インターネットと個々の製品がつながる「IoT」に対応した自動車分野のガイドライン作りに乗り出す方針を決めた。

■不公正貿易、自動車で新たに2件　経産省、優先4件是正迫る（28日）
経済産業省は、海外の不公正な貿易政策の報告書をまとめ、対策方針を示した。

6月

■政府、自動車運転技術でのサービス案まとめ（2日）
政府は、自動運転技術で目指す当面のサービス案をまとめた。現行の開発プロジェクトで掲げる交通事故の削減に加え、トラック運転手不足を見越した隊列走行や高齢者の地域利用、自動駐車などの実用化を目指す。

■経産省、中小部品メーカーの設計・開発技術高度化支援（4日）
経済産業省は、自動車部品メーカーの設計・開発技術の高度化に乗り出す。

■NEDO、燃料電池車の課題解決へ新プロジェクトに着手（6日）
新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）は、燃料電池自動車の本格普及に向け新たな研究開発プロジェクトに着手する。

■チャデモ協議会、EV電力を家庭に　日本で来月認証作業（12日）
チャデモ協議会は、電気自動車（EV）に貯めた電力を家庭などに流す「V2H」のガイドラインに基づく系統連系認証作業を来月から日本で始める。

■自技会、スターターなどの耐久試験　日本主導で統一規格（12日）
自動車技術会は、スターターやジェネレーターの耐久試験に関する国際規格の策定に乗り出す。

■タカタ製エアバッグ改修率、5月末で32%（16日）
国土交通省は、タカタ製エアバッグのリコール（回収・無償修理）進ちょく状況を公表した。

■改正車両法成立へ　リコール調査、部品メーカーも対象に（17日）
道路運送車両法の改正案が16日、参院国土交通委員会で可決された。近く本会議で可決され、今国会で成立する見込みだ。

■ITSジャパン、自度運転研究会立ち上げ　来月7日初会合（17日）
ITSジャパンは、東京都千代田区の経団連会館で開催した通常総会後のシンポジウムで2015年度に「自動運転研究会」を立ち上げることを明らかにした。

■政府、イノベーション戦略「スマート化」を推進　新たな産業創出（20日）
政府は、「科学技術イノベーション総合戦略2015」と「知的財産推進計画2015」をそれぞれ決めた。

■国交省、イモビライザー装着義務化を検討（22日）
車両盗難に効果があるイモビライザーの装着義務化が検討されることになった。

■全トヨタ労連・全本田労連、納入先の国内生産で15年春闘賃上げ明暗（23日）
全トヨタ労連と全本田労連傘下の部品メーカーの2015年春闘は、主要納入先のトヨタ自動車、ホンダの国内生産の動向で明暗が分かれる格好となった。

■自動車用内燃機関技術研究組合、部品メーカーに参加促す（25日）
自動車メーカー9社などで組織する自動車用内燃機関技術研究組合（AICE）は、部品メーカーに対する誘致活動を本格化する。

国　内

4月

■〈部品メーカー　アンケート〉部品メーカー新卒採用、来年度も堅調（27日）
日刊自動車新聞社が部品メーカーを対象に実施した新卒採用に関するアンケート調査（4月上旬に実施）によると、2016年度の新卒採用計画（16年4月入社）は、15年4月の入社実績を4.4%上回った。

■丸久、アルミと鋼材の接合技術を自動車向けに提案（28日）
製造業向けに非鉄金属を活用した新技術を提供する丸久は、鋼材とアルミニウムを接合するジョイント技術を自動車向けに展開する。

■ホンダの3月期連結決算　リコール対策など影響し3期ぶり減益（30日）
ホンダが発表した2015年3月期連結決算（米国会計基準）は、グループ販売台数で3年連続過去最高となり、3年連続の増収で過去最高の売上高となったものの、相次ぐリコールへの対応などの影響で3年ぶりに減益に転じた。

■トヨタ系部品7社3月期決算、全社増収もまだら模様（30日）
トヨタ系大手部品メーカーが発表した2015年3月期連結業績は、まだら模様となった。7社中4社が営業増益を果たした一方、3社が営業減益を喫した。

5月

■トヨタ、15年3月期連結業績　2期連続で最高（9日）
トヨタ自動車が発表した2015年3月期連結業績（米国基準）は、営業利益が前年比20.0%増の2兆7505億円になるなど、すべての利益項目で2年連続の過去最高を更新した。

■タカタ、特損586億円計上（9日）
タカタは、2015年3月期の決算を発表した。

■プライムアースEVエナジー、新卒採用説明会をネット配信（9日）
プライムアースEVエナジーが新卒採用の円滑化に向け、4月から会社説明会のインターネット配信を開始した。

■140億円の特別損失、東洋ゴムが業績修正（13日）
東洋ゴム工業は免震ゴムの性能偽装問題を受けて140億円の特別損失を計上した。

■トヨタとマツダ提携拡大、商品・技術を補完　経営資源相互活用（14日）
トヨタ自動車とマツダは、提携拡大に向けた検討を開始すると発表。

■トヨタと日産、タカタ製エアバック不良で新たにリコール164万6000台（14日）
トヨタ自動車と日産自動車は、タカタ製エアバッグに関する新たなリコール（回収・無償修理）を国土交通省に届け出た。

■NOK、防振ゴム鋳物を国産に　17年稼動、世界生産3割増（14日）
NOKは国内市場向け防振ゴムに使う鋳物を、2017年初頭から日本での生産に切り替える。

■丸順、埼玉工場閉鎖など建て直しへ構造改革（18日）
ホンダ系プレス部品メーカーの丸順は、15日に開催した取締役会で事業構造改革を実施することを決めた。

クローズアップ

国交省、配光可変型前照灯や覚醒状態検知
交通事故防止狙い本格普及へ（5月21日）

AFSイメージ

国土交通省は、車両の安全性を高めるため配光可変型前照灯（AFS）やドライバー覚醒状態検知技術などの本格的な普及に乗り出す。いずれも一定割合で普及した場合、国内の交通事故死者を減らす効果が高いと判断した。

■ホンダ系、14年度決算10社が営業減益　日本やタイ減産響く（20日）
ホンダ系部品メーカー13社の2014年度決算は、中国や北米での売り上げ増や為替の円安により8社が増収となったが、日本やタイでの減産によって、営業利益は10社が減益、1社が損失となった。

■人とくるまのテクノロジー展開幕、注目の最新技術を幅広く（21日）
自動車技術に関する国内最大の展示会「人とくるまのテクノロジー展2015」（主催＝自動車技術会、加藤光久会長）が20日、パシフィコ横浜（横浜市西区）で開幕した。国内外の部品・素材メーカー、計測・シミュレーション機器メーカーなど538社が1150小間を出展し、過去最大規模での開催となった。

■デンソー、補修部品を新興国で集中調達　低価格品を世界投入（25日）
デンソーは、中国や東南アジアなどから補修部品を集中調達し、世界各国市場で低価格品をラインアップする取り組みを本格化する。

■ホンダ、解体時期にエアバック異常展開　運転席用でも（27日）
ホンダは新潟県の解体事業者が2005年モデルの「フィット」の解体処理で、運転席のエアバッグを展開した際、異常破裂する事象が発生していたことを明らかにした。

■河西工業、ルノー・日産向けに欧州で供給体制整備　仏内装メーカーと協業（27日）
河西工業はフランスの内装部品メーカーと協業し、欧州でルノー・日産向けの製品供給体制を整える。

■日産系8社14年度決算、7社増収、5社が営業増益（28日）
日産自動車との取引が多い部品メーカー8社の2014年度決算は7社が増収、5社が営業増益だった。

■ホンダ、リコール新たに33万9千台　タカタ製エアバッグ全数調査から切替え（29日）
ホンダは、タカタ製エアバッグに関して新たに約33万9000台のリコール（回収・無償修理）を国土交通省に届け出た。

■DeNAとZMP、自動車事業の発表会　東京五輪に無人ロボットタクシー（29日）
モバイルゲーム大手のディー・エヌ・エー（DeNA）は、新規参入した自動車事業の発表会を開催した。

6月

■車工会、会長に渡辺義章氏（1日）
日本自動車車体工業会（車工会）は、このほど開催した通常総会で新会長に日産車体の渡辺義章社長を選出した。

■カーナビ5社、14年度決算　2社が増収増益（1日）
カーナビゲーションメーカー5社の2014年度決算は、円安効果や海外での自動車販売の好調などによって4社が増収を果たした。

■トヨタ、スマホと車載器連携　フォードとの協業成果（4日）
トヨタ自動車は、米フォードモーターが持つスマートフォン（スマホ）用アプリを車載器上で使用できるシステムの導入に向けた検討に合意した。

日刊自ダイジェスト

■住友ゴムとグッドイヤー、提携解消を発表（5日）
住友ゴム工業は4日、同日付で米グッドイヤータイヤ&ラバーカンパニーとのアライアンス契約及び合弁事業の解消について合意したと発表。

■マツダ、タカタ製エアバック　新たに7万6000台分リコール（5日）
マツダは、タカタ製エアバッグに関して新たに約7万6000台分のリコール（回収・無償修理）を国土交通省に届け出た。

■トヨタ系部品7社　今期設備投資　前期上回る9500億円（5日）
トヨタグループのサプライヤーで高水準の設備投資が続いている。

■トヨタ系サプライヤー、“ものづくり改革”へ機運（8日）
トヨタ系サプライヤーの間で、部品開発の初期段階から生産技術や製造部門を加えて仕様を検討する「ものづくり改革」の重要性が高まっている。

■グッドイヤー、住友ゴムと新委託契約（9日）
米グッドイヤータイヤ&ラバーカンパニーは、住友ゴム工業と日本国内における「グッドイヤー」ブランド補修用タイヤの開発および生産に関する新たな長期委託契約を結んだ。

■カーナビメーカー、今年度の設備投資増加　先行開発や工場増強で（10日）
カーナビゲーションメーカーでは、2015年度の設備投資額を前年度に比べて増加させる計画が目立つ。

■曙ブレーキ、GMの米リコールを発表　積極開示で不安払拭（16日）
曙ブレーキ工業は、ゼネラル・モーターズ（GM）のピックアップトラック向けに納入しているブレーキキャリパーに不具合が発生し、GMが米国でリコールを実施すると発表した。

■世界トップクラスの導電率、古河電工がカーボン・ナノチューブ開発（18日）
古河電気工業は、信州大学と共同で世界トップクラスの導電率を付与したカーボン・ナノチューブ（CNT）導体の開発に成功した。

■東洋ゴム会長・社長が引責辞任、免震ゴム不正問題で（24日）
東洋ゴム工業は、免震ゴムの性能データ改ざん問題を受けて会長と社長が辞任すると発表した。

海　外

4月

5月

■エフテック、中国メーカーと初取引　北京汽車にサブフレーム（12日）
ホンダ系足回り部品メーカーのエフテックは、中国・北京汽車からサブフレームを受注し、納入を始めた。

■独ZF、TRWの買収完了（19日）
独ZFは、米TRWオートモーティブ・ホールディングスの買収を完了した。

6月

■エアバッグ問題　米公聴会、タカタ「硝酸アンモニウムに問題なし」（4日）
米下院エネルギー・商業委員会は2日（日本時間3日）、タカタ製エアバッグの欠陥問題に関する公聴会を開催した。

市　場

4月

■国内乗用車メーカー14年度世界販売、5社中4社が最高　北米・中国好調で（25日）
日本の乗用車メーカーの2014年度世界販売台数は、23日に実績を公表した5社のうち、グループでの販売台数が13年度に続いて1千万台を超えたトヨタ自動車のほか、日産自動車やスズキ、マツダの4社が過去最高となった。ダイハツ工業は前年実績をわずかに下回ったが高水準を維持した。

■14年度の国内生産実績　5年ぶり前年割れ（30日）
日本自動車工業会が発表した2014年度の国内生産実績は、前年同期比3.2%減の959万644台と5年ぶりのマイナスとなった。

■14年度の自動車輸出実績　輸出もマイナス　円安でも海外シフト鮮明（30）
日本自動車工業会が発表した2014年度の自動車輸出自動車実績は、前年同期比3.1%減と、2年連続で前年割れとなった。為替水準は円安で推移したものの、国内自動車メーカー各社が超円高水準の際に海外生産シフトを進めた結果、輸出は低調にしている。

5月

6月

■自動車4社　昨年度の再資源化実績など公表（2日）
自動車メーカー各社は、自動車リサイクル法に基づく2014年度の再資源化などの実績を公表した。05年1月にスタートした同法に基づき、自動車のシュレッダーダスト（ASR）、エアバッグ類、フロン類の3品目について再資源化などの実績を毎年公表している。

■乗用車メーカー8社、15年度の国内生産3%減へ（10日）
乗用車メーカー8社の2015年度の国内生産台数は、前年度比3%減の890万台程度になりそうだ。

記者の目　自動車産業に参入のDeNA 東京五輪までに無人タクシーを実用化

「異業種参入」―。ここ数年、自動車業界ではよく耳にする言葉だ。モバイルゲーム大手のディー・エヌ・エー（DeNA）もその一つ。ZMPと合弁で「ロボットタクシー」を立ち上げ、無人タクシーを走らせる計画という。オートモーティブ事業を統括する中島宏執行役員は「巨大な自動車産業が遅れてきたIT革命にさらされている」ことを参入の理由にあげた。IT分野での自動車の現状は携帯電話に例えるとまだ「iモード前夜」で、だからこそDeNAには魅力的に映る。

ロボットタクシーのミッションは「移動を楽に」。交通弱者に快適で自由な移動を提供するとともに、移動時間を楽しいものにすることだ。現在は自動運転の技術競争に焦点が当たるが、中島氏は「ユーザーにどういう体験を提供するかが競争領域になる」と単なる自動送迎事業にとどまらず、その先を見据える。まだビジネスモデルが未確定で、事故発生時の責任分担や完全自動運転実現のための法改正など課題も存在する。それでもDeNAは東京五輪までにロボットタクシーを走らせる構想を描く。大きな変革期を迎えた日本の自動車産業の一段の成長には関係省庁の支援だけでなく国民の理解も必要となる。後5年、そう遠い未来ではない。（N）

このダイジェストは4月25日～6月25日まで日刊自動車新聞に掲載した主要な部品関連記事を抜粋。詳しくは日刊自動車電子版・http://www.netdenjd.com/（有料・月額3,500円）で読めます。

指標・統計

■自動車の生産・販売・輸出（自工会調）

1．四輪車の生産実績

（単位：台）

	2015. 2月分	対前年同月比（%）	1月よりの累計	対前年同期比（%）	2015. 3月分	対前年同月比（%）	1月よりの累計	対前年同期比（%）
乗用車	698,467	94.2	1,355,410	91.6	740,236	91.9	2,095,646	91.7
普通車	399,063	97.9	765,788	94.1	427,346	100.9	1,193,134	96.4
小型四輪車	139,789	85.3	277,763	85.9	140,099	76.4	417,862	82.5
軽四輪車	159,615	93.9	311,859	91.2	172,791	87.0	484,650	89.6
トラック	113,885	103.5	224,105	101.7	125,991	102.3	350,096	101.9
バス	11,512	95.7	22,105	89.9	12,350	110.3	34,455	96.3
合計	**823,864**	**95.4**	**1,601,620**	**92.9**	**878,577**	**93.5**	**2,480,197**	**93.1**

2．四輪車の国内販売実績

（単位：台）

	2015. 2月分	対前年同月比（%）	1月よりの累計	対前年同期比（%）	2015. 3月分	対前年同月比（%）	1月よりの累計	対前年同期比（%）
乗用車	413,192	84.2	757,232	81.9	586,796	88.1	1,344,028	84.5
普通車	124,764	77.8	221,069	74.6	187,821	88.6	408,890	80.4
小型四輪車	124,801	89.3	236,131	88.2	168,591	82.2	404,722	85.6
軽四輪車	163,627	85.9	300,032	83.4	230,384	92.6	530,416	87.1
トラック	67,919	92.3	124,509	91.9	106,065	92.3	230,574	92.1
バス	991	92.1	1,727	104.2	2,550	103.4	4,277	103.7
合計	**482,102**	**85.3**	**883,468**	**83.2**	**695,411**	**88.8**	**1,578,879**	**85.6**

3．四輪車の輸出実績

（単位：台）

	2015. 2月分	対前年同月比（%）	1月よりの累計	対前年同期比（%）	2015. 3月分	対前年同月比（%）	1月よりの累計	対前年同期比（%）
乗用車	313,100	99.7	610,032	101.7	337,433	102.0	947,465	101.8
普通車	298,893	101.7	580,237	104.2	321,410	103.5	901,647	104.0
小型四輪車	13,786	68.7	28,938	67.2	15,493	79.0	44,431	70.9
軽四輪車	421	408.7	857	298.6	530	79.7	1,387	145.7
トラック	41,414	103.6	76,741	109.7	46,490	106.4	123,231	108.4
バス	11,341	89.5	20,954	89.0	12,873	113.5	33,827	96.9
合計	**365,855**	**99.7**	**707,727**	**102.1**	**396,796**	**102.8**	**1,104,523**	**102.3**

■自動車部品の生産・輸出・輸入

1．自動車部品の生産（経済産業省「生産動態統計」）

（単位：百万円）

		2015. 2月分	対前年同月比（%）	1月よりの累計	対前年同期比（%）	2015. 3月分	対前年同月比（%）	1月よりの累計	対前年同期比（%）
総括	自動車部品　41品目	537,266	98.2	1,052,420	97.0	567,127	101.2	1,619,547	98.4
	関連自動車部品　9品目	107,452	95.1	212,095	96.3	115,097	99.7	327,192	97.5
	内燃機関電装品　5品目	32,983	99.7	65,517	98.4	34,487	99.7	100,004	98.9
	二輪車部品　4品目	6,140	95.9	12,254	96.2	6,290	104.7	18,544	98.9
	合計	**683,841**	**97.7**	**1,342,286**	**96.9**	**723,001**	**100.9**	**2,065,287**	**98.3**

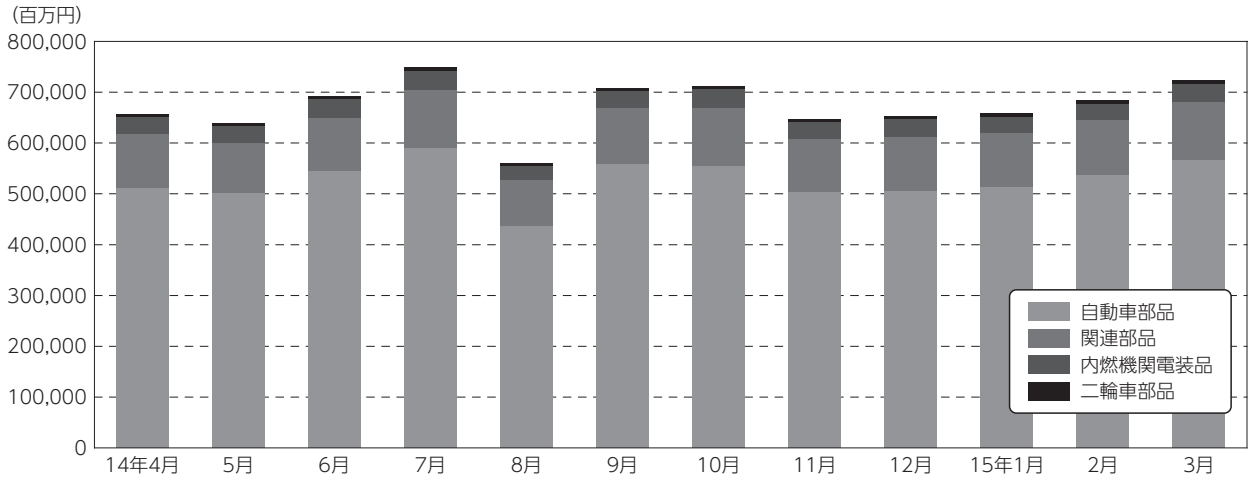
			2015. 2月分	対前年同月比(%)	1月よりの累計	対前年同期比(%)	2015. 3月分	対前年同月比(%)	1月よりの累計	対前年同期比(%)
自動車部品(41品目)	1	ピストン	3,347	94.0	6,677	95.2	3,713	100.4	10,390	97.0
	2	ピストンリング	3,463	102.5	6,818	102.9	3,702	103.9	10,520	103.2
	3	シリンダーライナ	1,716	92.9	3,441	94.1	1,749	91.3	5,190	93.1
	4	吸気弁及び排気弁	3,239	88.5	6,498	89.5	3,475	97.1	9,973	92.0
	5	ガスケット	2,396	96.3	4,779	95.3	2,522	99.9	7,301	96.8
	6	燃料ポンプ	1,773	87.3	3,684	90.2	1,922	88.3	5,606	89.5
	7	空気清浄器	2,219	116.1	4,369	114.1	2,401	121.9	6,770	116.7
	8	油清浄器	1,812	98.6	3,586	97.5	1,869	93.2	5,455	96.0
	9	油ポンプ	2,373	94.8	4,750	95.0	2,447	95.4	7,197	95.2
	10	水ポンプ	2,542	109.1	4,917	105.5	2,516	105.6	7,433	105.5
	11	ラジエータ	15,236	67.3	32,023	82.7	16,068	88.4	48,091	84.5
	12	クラッチ装置	5,267	99.6	10,127	98.9	5,550	98.2	15,677	98.7
	13	自動変速装置	182,066	102.8	355,198	100.3	188,891	102.9	544,089	101.2
	14	ユニバーサルジョイント	3,333	95.3	6,685	94.1	3,340	93.6	10,025	93.9
	15	プロペラシャフト	4,540	92.3	8,929	90.5	4,880	97.3	13,809	92.8
	16	車輪	8,046	99.2	16,001	95.6	8,837	102.8	24,838	98.0
	17	かじ取りハンドル	4,040	87.4	7,958	86.5	4,288	90.0	12,246	87.7
	18	ショックアブソーバ	10,837	105.5	21,234	99.0	11,290	104.8	32,524	101.0
	19	ブレーキ倍力装置	2,413	84.0	4,774	84.2	2,678	89.2	7,452	85.9
	20	ブレーキシリンダ	3,693	55.9	7,233	55.0	4,092	61.0	11,325	57.1
	21	ブレーキパイプ	2,698	104.6	5,436	104.1	3,355	116.7	8,791	108.6
	22	ブレーキシュー	2,786	96.4	5,425	94.3	2,931	94.5	8,356	94.4
	23	燃料タンク	7,174	95.1	14,006	93.2	7,678	95.8	21,684	94.1
	24	排気管及び消音器	27,212	97.5	53,688	97.1	29,415	102.0	83,103	98.8
	25	窓わく	2,725	93.5	5,355	93.7	3,025	102.4	8,380	96.7
	26	ドアヒンジ・ハンドル・ロック	7,680	90.1	15,041	88.8	8,217	91.5	23,258	89.8
	27	窓ガラス開閉装置	4,383	94.2	8,890	96.4	4,700	98.1	13,590	97.0
	28	シート	73,146	103.8	139,530	99.7	78,763	107.3	218,293	102.3
	29	スイッチ類	14,391	99.5	28,239	97.2	14,549	101.6	42,788	98.7
	30	計器類	10,991	92.8	21,018	91.6	11,251	99.4	32,269	94.2
	31	窓ふき	7,164	94.7	13,952	92.7	8,042	100.8	21,994	95.5
	32	警音器	1,334	99.6	2,661	99.1	1,462	106.4	4,123	101.6
	33	暖房装置	8,405	87.0	16,752	86.5	9,174	92.7	25,926	88.6
	34	電子式ブレーキ制御装置	15,396	98.1	30,244	96.1	17,144	110.0	47,388	100.7
	35	シートベルト	7,518	91.2	14,830	90.1	7,739	92.5	22,569	90.9
	36	エアバッグモジュール	7,308	101.3	14,151	98.8	7,510	104.1	21,661	100.6
	37	気化器・燃料噴射装置	21,687	101.3	42,286	101.0	23,051	103.7	65,337	101.9
	38	ｽﾃｱﾘﾝｸﾞ装置･ﾀｲﾛｯﾄﾞ･ﾀｲﾛｯﾄﾞｴﾝﾄﾞ	35,460	99.0	70,442	98.9	36,604	99.3	107,046	99.0
	39	軸受メタル	3,963	93.6	7,816	90.0	4,180	94.4	11,996	91.5
	40	ブッシュ	2,810	120.2	5,538	122.1	2,942	100.5	8,480	113.6
	41	オイルシール	8,684	101.1	17,439	101.2	9,165	102.1	26,604	101.5
		合　計	**537,266**	**98.2**	**1,052,420**	**97.0**	**567,127**	**101.2**	**1,619,547**	**98.4**
関連自動車部品(9品目)	1	自動車用蓄電池	8,362	102.1	16,724	100.7	9,332	103.9	26,056	101.8
	2	かさね板ばね	2,308	103.5	4,622	101.6	2,492	106.8	7,114	103.3
	3	つるまきばね	1,847	86.8	3,601	85.6	1,821	84.5	5,422	85.2
	4	線ばね	4,824	99.4	9,302	98.6	4,932	100.6	14,234	99.3
	5	カークーラー	25,615	93.0	49,907	99.7	27,902	99.4	77,809	99.6
	6	自動車用器具	31,716	100.1	62,544	102.2	33,438	103.4	95,982	102.6
	7	自動車用電球	883	96.7	1,795	96.5	1,016	97.2	2,811	96.7
	8	カーオーディオ	3,153	107.0	6,048	99.4	3,426	91.7	9,474	96.4
	9	カーナビゲーションシステム	28,744	88.6	57,552	86.8	30,738	96.5	88,290	90.0
		合　計	**107,452**	**95.1**	**212,095**	**96.3**	**115,097**	**99.7**	**327,192**	**97.5**

指標・統計

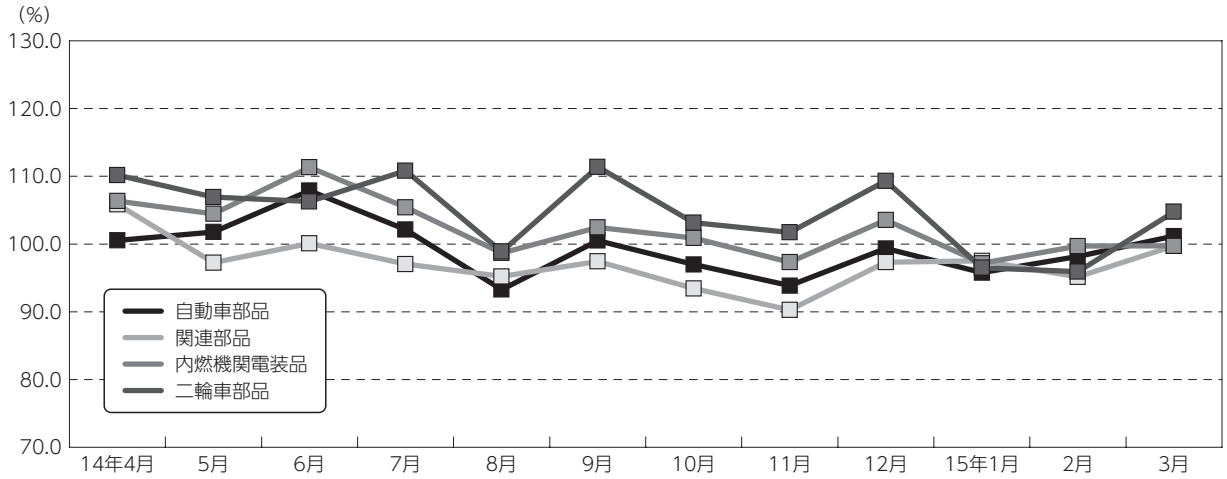
			2015. 2月分	対前年同月比(%)	1月よりの累計	対前年同期比(%)	2015. 3月分	対前年同月比(%)	1月よりの累計	対前年同期比(%)
内燃機関電装品(5品目)	1	ダイナモ	6,455	91.0	13,086	90.6	6,971	96.7	20,057	92.6
	2	スタータ	7,780	96.7	15,601	97.3	8,018	97.1	23,619	97.2
	3	ディストリビュータ	592	98.5	1,190	97.3	660	105.6	1,850	100.1
	4	イグニッションコイル	6,504	90.1	12,956	89.8	7,262	97.6	20,218	92.4
	5	プラグ	11,652	115.0	22,684	111.0	11,576	104.8	34,260	108.8
		合　計	**32,983**	**99.7**	**65,517**	**98.4**	**34,487**	**99.7**	**100,004**	**98.9**
二輪自動車部品(4品目)	1	気化器	872	93.0	1,745	96.4	886	109.2	2,631	100.4
	2	ショックアブソーバ	2,278	104.4	4,492	102.5	2,271	109.6	6,763	104.8
	3	計器類	1,083	84.0	2,206	82.8	1,146	94.2	3,352	86.4
	4	ブレーキ装置	1,907	95.8	3,811	98.2	1,987	104.3	5,798	100.2
		合　計	**6,140**	**95.9**	**12,254**	**96.2**	**6,290**	**104.7**	**18,544**	**98.9**

(注)：経済産業省「生産動態統計」の見直しにより
①平成21年1月より／「自動車用蓄電池」を「自動車用蓄電池（二輪自動車用を除く)」に変更。
②平成23年1月より／「オレオ（ショックアブソーバを含む)」を「ショックアブソーバ」に変更。
③平成26年1月より／品目の掲載順序を一部変更。
④平成26年1月より／「エアバッグモジュール」の定義を変更。
　そのため、発生年月以前の数値と発生年月以降の数値をそのまま比較出来ません。
　接続係数を前年の数値に乗じて、当月の数値と接続して前年比を算出しています。
⑤平成26年1月より／「オイルシール」の生産額の掲載が廃止になったため、「オイルシール」のみ販売額を計上しています。

■最近12ヶ月の自動車部品の生産推移



■自動車部品生産の対前年同月比の状況



イワタボルトの
グローバルネットワーク

国内
・栃木工場・一関・山形・仙台・福島・宇都宮・栃木
・上田・群馬・太田・埼玉・つくば・千葉・五反田
・多摩・横浜・湘南相模・富士・浜松・名古屋・刈谷
・三重・大阪・福岡・久留米

海外
・タイ工場・シンガポール工場・オハイオ工場
・深圳工場・香港・上海・蘇州支店・武漢
・深圳貿易・深圳汽車零部件
・シンガポール・マレーシア・タイ・インドネシア
・アメリカ（ロサンゼルス・アトランタ・
　オハイオ・ナッシュビル）・メキシコ・カナダ

認定または認証取得一覧

	タイトル	認定・認証施設	取得・更新年月	取得No.	認定・認証機関
日本	ISO/IEC 17025:2005	栃木試験所	2009年12月	RTL00210	JAB
	ISO/IEC 17025:2005	技術開発課 IBラボ	2011年4月	ASNITE 0050T	IA Japan
	ISO 9001:2008	栃木工場・技術開発課	2009年12月	YKA200001	LRQA
	ISO 14001:2004	本社・五反田(営)・栃木工場	2010年1月	0772850	LRQA
アメリカ	ISO 9001:2008	IWATA BOLT USA.INC	2010年9月	FM549851	BSI
	ISO 14001:2004	IWATA BOLT USA.INC	2010年3月	EMS549810	BSI
シンガポール	ISO 9001:2008	IWATA BOLT SINGAPORE PTE.LTD	2009年7月	94-2-0318	PSB
	ISO 14001:2004	IWATA BOLT SINGAPORE PTE.LTD	2010年9月	2004-0265	PSB
タイ	ISO 9001:2008	IWATA BOLT THAILAND CO.,LTD.	2010年10月	TH07000507	BVQi
中国(深圳)	ISO/TS 16949:2009	岩田螺絲(深圳)有限公司	2010年11月	0079530	TÜV NORD
	ISO 9001:2008	岩田螺絲(深圳)有限公司	2009年7月	04100062166	TÜV NORD
	ISO 14001:2004	岩田螺絲(深圳)有限公司	2009年7月	04104062166	TÜV NORD

イワタボルト株式会社

〒141-8508　東京都品川区西五反田 2 丁目 32 番 4 号
電話　03(3493)0211(代表)　　http://www.iwatabolt.co.jp/

「企業は人」

環境が変化しても長し続ける人材を育てる

人材育成

人材育成制度
037 社

目標設定研修
075 回

評価者能力研修
540 回

昇格者選抜評価
143 回

人事・人材開発支援の

主な実績企業
アイシン・エーアイ株式会社
アイシン化工株式会社
アイシン機工株式会社
アイシン軽金属株式会社
アイシン・コムクルーズ株式会社
株式会社アイシン・コラボ
アイシン精機株式会社
アイシン辰栄株式会社
アイシン高丘株式会社
NTN 株式会社
株式会社キャタラー
埼玉工業株式会社
株式会社ソミック石川
津田工業株式会社
株式会社デンソーエアシステムズ
株式会社デンソーセールス
デンソーテクノ株式会社
トヨタ自動車株式会社
株式会社豊田自動織機
浜名湖電装株式会社
浜名部品工業株式会社
豊生ブレーキ工業株式会社
マブチモーター株式会社　他（50 音順）

株式会社シナジーパワー
愛知県名古屋市中区丸の内 1-17-19 キリックス丸の内ビル 8F
TEL　052-204-4780　FAX　052-204-4700　〒460-0002
E-MAIL　info@synergy-power.co.jp

暑中お見舞い申し上げます

アルパイン株式会社 相談役 石黒　征三	**朝日電装株式会社** 代表取締役社長 手嶋　寛征	**株式会社浅野歯車工作所** 取締役社長 倉長勇太郎	**曙ブレーキ工業株式会社** 代表取締役社長 信元　久隆	**株式会社青山製作所** 取締役社長 青山　幸義	**愛三工業株式会社** 代表取締役社長 小林　信雄
ＮＴＮ株式会社 代表取締役社長 大久保博司	**ＮＯＫ株式会社** 代表取締役会長兼社長 鶴　正登	**エス・オー・シー株式会社** 代表取締役会長 蟻川　浩雄	**エイケン工業株式会社** 代表取締役 早馬　義光	**イワタボルト株式会社** 代表取締役社長 岩田　聖隆	**株式会社今仙電機製作所** 代表取締役会長 若山　恭二 代表取締役社長 藤掛　治
株式会社杉浦製作所 代表取締役社長 杉浦　明博	**株式会社ジェイテクト** 取締役社長 安形　哲夫	**三和パッキング工業株式会社** 代表取締役社長 宮川　博至	**三輪精機株式会社** 代表取締役社長 西海　栄一	**株式会社小糸製作所** 代表取締役会長 大嶽　昌宏	**大野ゴム工業株式会社** 代表取締役 大野　洋一
竹内工業株式会社 取締役社長 竹内　政雄	**大和産業株式会社** 代表取締役社長 丸山　和重	**ダイヤモンド電機株式会社** 代表取締役社長 栗田　裕功	**大同メタル工業株式会社** 代表取締役会長 兼最高経営責任者 判治　誠吾	**大東プレス工業株式会社** 代表取締役 吉田　隆司	**制研化学工業株式会社** 代表取締役 前川　幸生

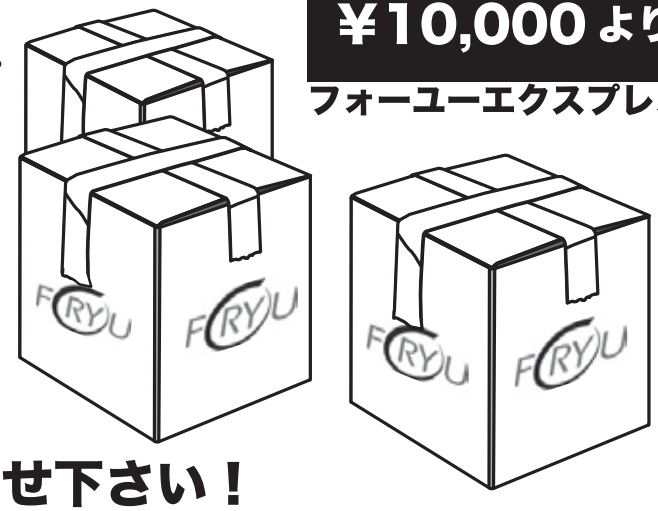
日本から中国へ、中国から日本へ、

航空貨物より速く、
クーリエよりも速く貨物を運びたい…

定期便ご利用なら、
¥10,000より

フォーユーエクスプレス

日本 中国間



同日即配！通関業務もお任せ下さい！

最速

安心、確実、丁寧な
ハンドキャリーで
皆様のご要望に答えます。

TEL：03-5651-5685　Mail：info@foryouexpress.jp
FAX：03-3661-8170　URL：http://foryouexpress.jp/

フォーユーエクスプレス　検索

暑中お見舞い申し上げます

日本精工株式会社 取締役 代表執行役社長 内山 俊弘	**株式会社ニチリン** 代表取締役社長 執行役員 前田 龍一	**トヨタ紡織株式会社** 取締役社長 石井 克政	**東海マテリアル株式会社** 取締役社長 佐伯 正裕	**株式会社デンソー** 取締役社長 有馬 浩二	**TPR株式会社** 代表取締役社長兼COO 山岡 秀夫
株式会社日刊自動車新聞社 代表取締役社長 市川 優	**株式会社ヨロズ** 代表取締役会長 志藤 昭彦 代表取締役社長 佐藤 和已	**三菱製鋼株式会社** 取締役社長 佐藤 基行	**マルヤス工業株式会社** 代表取締役会長 山田 隆雄	**株式会社ボンフォーム** 代表取締役 西脇 保彦	**日本特殊陶業株式会社** 代表取締役社長 尾堂 真一

Japan Auto Parts Industries Association

JAPIA NEWS

2015 7・8 隔月刊

一般社団法人 日本自動車部品工業会

(通巻708号)

目　次

07 巻頭言
副会長・判治　誠吾

09 特集 部工会 通常総会開催

14 特集 INTERMOLD 2015でアピール

19 平成27年度中小企業会員各社
優良従業員表彰

25 DBJ 経済ワンポイント解説 Vol.4
世界経済の成長鈍化とインフラ投資への期待
日本政策投資銀行

27 工業会業務レポート・スケジュール

33 会員企業紹介
内山工業株式会社

35 北米事務所だより Vol.113

36 日刊自動車新聞　NEWSダイジェスト

39 指標・統計

平成27年7月15日発行
(隔月1回15日発行)

■発行所
一般社団法人
日本自動車部品工業会
〒108-0074
東京都港区高輪1-16-15
電話 03-3445-4212
FAX 03-3447-5372

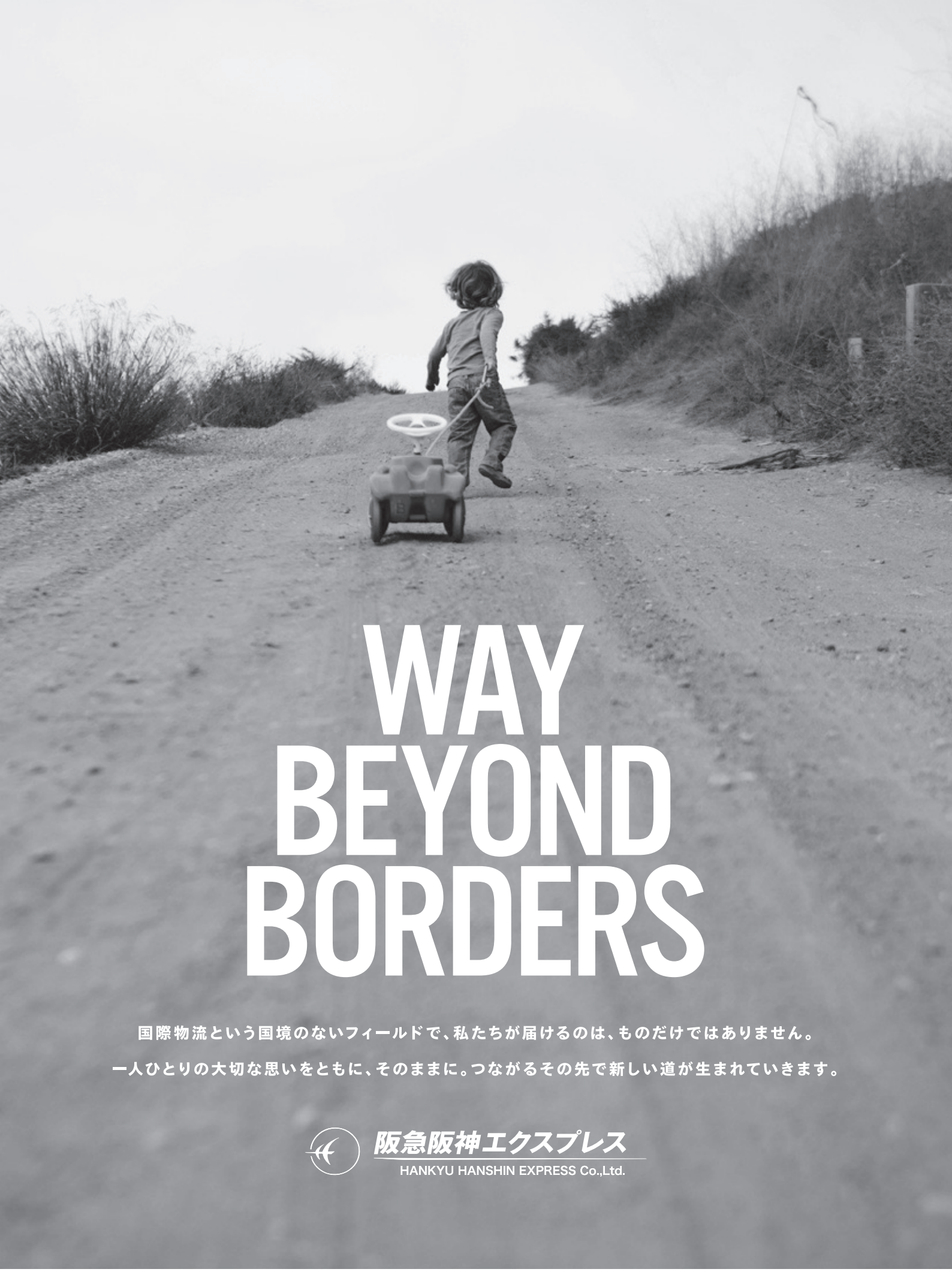
■編集
日刊自動車新聞社
〒105-0012
東京都港区芝大門1-10-11
芝大門センタービル3階
電話 03-5777-2351(代表)

■価格(消費税・送料別)
1部1,000円

JAPIA会員企業様向け
最新のTS16949セミナーの情報・案内等は… www.lapj.co.jp まで

ISO教育コンサルティング
株式会社エルエーピー
LAP ISO
Lead Auditor Project Team

〒106-0032　東京都港区六本木1-7-27　TEL:03-5114-2930　Email : iso@lapj.co.jp



国際物流という国境のないフィールドで、私たちが届けるのは、ものだけではありません。
一人ひとりの大切な思いをともに、そのままに。つながるその先で新しい道が生まれていきます。

阪急阪神エクスプレス
HANKYU HANSHIN EXPRESS Co.,Ltd.

http://www.hh-express.com/jp/

世界の道で、
乗る人の「うれしさ」を
学び続ける。

そのクルマは、ヨーロッパの石畳を走るかもしれない。
そのクルマは、灼熱の砂漠を走るかもしれない。
そのクルマは、極寒の凍結路を走るかもしれない。
アイシン精機、特殊試験路。ここには世界のあらゆる道がある。
どんな環境でも満足してもらえる一台のために、このテストコースで
コンピュータで究めた製品を、さらに、乗る人の気持ちになって鍛えあげていく。
すべては、クルマの部品やシステムの開発段階から、
乗る人の“うれしさ”を学び、求められているものをカタチにするために。

50TH
AISIN GROUP

AISIN
One Team, Best Future

アイシン精機株式会社 〒448-8650 愛知県刈谷市朝日町2丁目1番地 www.aisin.co.jp